

地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報

2023

仙台市富沢遺跡保存館
SENDAI CITY TOMIZAWA SITE MUSEUM

仙台市縄文の森広場
SENDAI CITY JOMON SITE PARK

は じ め に

地底の森ミュージアム（仙台市富沢遺跡保存館）は、2万年前の旧石器時代のたき火跡と森林跡を発掘したままの状態で保存・公開し、当時の景観を「氷河期の森」として野外に復元している施設です。平成8年に開館し、これまでに104万人を超える方々にご利用いただきました。また、姉妹館である仙台市縄文の森広場は、縄文時代の集落跡が発見された山田上ノ台遺跡を保存・活用する目的で、平成18年に開館し、体験学習活動を含めたこれまでの利用者は47万人を超えました。

令和4年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、感染対策を講じながら各種事業を推進するとともに、多様な媒体による情報発信も行っていました。

地底の森ミュージアムでは、旧石器時代の常設展示のほか、第100回企画展「仙台の遺跡めぐり 再発見！ 富沢遺跡」など年3回の企画展、「氷河期の森」の維持管理をはじめとして、ミュージアムの特性を体感できる各種の講座や体験学習、季節ごとのイベント、仙台市縄文の森広場と連携して市内小・中学校を対象とした利用学習、職場体験、博物館実務実習などを開催しました。また、当館の特色でもある市民文化財研究員やボランティア育成などの事業、自主事業「親子でつくろう古代米」・「ミュージアム・シアター『狩人登場』」・「森の響き」・「地底の森アーカイブス」などを実施しました。さらに、ボランティア会と共に、地域住民との交流を図る「地底の森フェスタ」を開催したほか、大学生のサポーターや市内高校生の活動協力を得ながら、館活動の展開を図っています。

仙台市縄文の森広場では、児童生徒やご家族連れが勾玉づくりなどの多彩な体験活動に取り組んだほか、縄文文化に関する各種教室・講座など、市民参加による様々な事業を実施することができました。恒例となった季節ごとの縄文まつりでも、歴史的な空間の中で、地域の小・中学生や市民とともに楽しく有意義な交流を行うことができました。また、展示室内の企画展示コーナーでは東北地方の代表的な縄文遺跡を4回にわたり紹介しました。さらに、自主事業である「展示手法の開発・導入」では、3次元データの計測・蓄積・活用を行い、国際ミニシンポジウムを開催するとともに、リビング・ヒストリーの実践として石器製作実験セミナーを開催しました。

地底の森ミュージアムと仙台市縄文の森広場は、テーマミュージアムとしての専門性を深めるのみならず、運営懇談会を開催するなどして市民ニーズに対応した新たな取り組みを行い、「人間と環境」を考えるランドマークとなるような事業展開を目指します。また、先人の知恵に学ぶという観点から、両館が相互に補完し合う施設としてさらに連携、協力を図りながら、歴史を継承するための事業を進めてまいります。

今後も、歴史的資源としてのみならず、豊かな地域資源としての可能性を開発していくためにも、両館の事業展開に多方面の皆様方の益々のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年10月

（公財）仙台市市民文化事業団
仙台市富沢遺跡保存館
仙台市縄文の森広場
館 長 武 山 剛 久

目 次

はじめに
目次
例言

地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

1. 施設の概要	1
2. 組織・運営	1
3. 沿革	2
4. 整備の目的と基本方針	8

〔地底の森ミュージアム〕

1. 令和4年度事業報告	12
(1) 展示事業	12
(2) 普及啓発事業	15
(3) 調査研究事業	21
2. 施設管理	22
(1) 定例保守	22
(2) 施設・設備などの修繕	22
(3) 新型コロナウイルス感染症対策	22
3. 利用状況	22
4. 入館者アンケート	24
5. 令和5年度事業計画	24
(1) 展示事業	24
(2) 普及啓発事業	25
(3) 調査研究事業	27
(4) 資料の収集・保管	27
(5) 管理運営	27
(6) 刊行物	27
6. 利用案内	28

〔仙台市縄文の森広場〕

1. 令和4年度事業報告	29
(1) 展示事業	29
(2) 普及啓発事業	31
(3) 体験活動事業	34
(4) ボランティア活動事業	35
(5) 調査研究事業	36
2. 利用状況	37
3. 入館者アンケート	39
4. 令和5年度事業計画	39
(1) 基本方針	39
(2) 展示事業	39
(3) 普及啓発事業	39
(4) 調査研究事業	41
(5) 資料の収集・保管	41
(6) 管理運営	41
(7) 刊行物	41
5. 利用案内	42

例 言

本書は、公益財団法人仙台市市民文化事業団が仙台市より指定を受け、令和4年度に実施した仙台市富沢遺跡保存館指定管理業務（仙台市縄文の森広場を含む）の各事業などに係る実施報告と、令和5年度事業計画である。

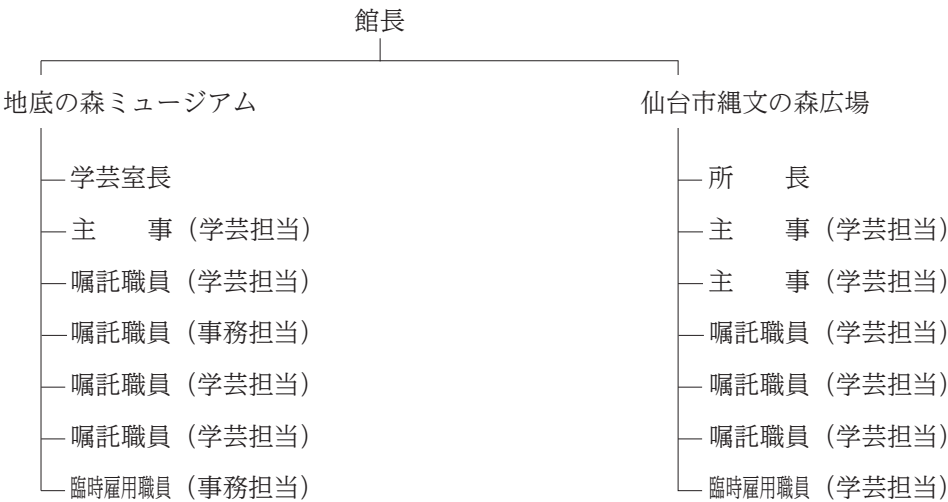
地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

1. 施設の概要

	地底の森ミュージアム	仙台市縄文の森広場
開館日	1996年(平成8年)11月2日	2006年(平成18年)7月15日
設置場所	〒982-0012 仙台市太白区長町南四丁目3-1	〒982-0815 仙台市太白区山田上ノ台町10-1
敷地面積	14,263㎡	27,350.94㎡
延床面積	2,743㎡	1,211.78㎡
建築構造	地下1階 地上1階 鉄骨鉄筋コンクリート	鉄筋コンクリート造一部2階建
特徴	建物は、コンクリート打放しの楕円形をしている。周囲の壁は地下の遺跡の保存と公開のために、建物基礎を兼ねた厚さ80cmの連続地中壁であり、それを地下20mまで築いて地下水を遮断する構造である。 建物内部については、地下の遺跡展示室は柱のない広がりをもった大空間となっており、中地下も含めて、床にはアスファルトブロックが敷かれ、照明を抑えて清謐な雰囲気になっている。対照的に1階は床を板張りとし、自然光を取り入れた明るい空間となっている。中でも、来館者にとっては最後の空間となる展望ラウンジは窓を大きくとり、そこからは野外展示の氷河期の森が眺められるようになっている。	野外には、復元した竪穴住居3棟を中心にその他の遺構を表示し、環境とともに集落を再現した縄文ムラゾーンと、未調査区でイベントや発掘体験などを行う広場ゾーンがある。 その北側の一面に出土資料などを展示し、各種体験活動ができるガイダンス施設を付設している。

2. 組織・運営

両館の管理・運営は、仙台市より令和4年度から令和8年度までの5ヶ年間の指定管理者に指定された公益財団法人仙台市市民文化事業団が行っている。令和5年4月1日時点の職員配置は下記のとおりである。



なお、地底の森ミュージアムは受付・案内業務、常駐警備業務、清掃業務を、仙台市縄文の森広場は清掃および復元住居の火焚き業務を民間に委託している。

3. 沿革

	地底の森ミュージアム	仙台市縄文の森広場
1980年 昭和55年		宅地造成にともなう山田上ノ台遺跡の発掘調査で、縄文時代中期末を主とする竪穴住居跡などの多数の遺構が発見され、集落構造の全体がわかる遺跡の重要性から保存を決定する。 遺跡の活用を図るための「(仮称) 原始古代村構想」の検討がスタートする。
1982年 昭和57年	地下鉄建設にともなう試掘調査で富沢遺跡が発見される。	
1984年 昭和59年		旧石器時代資料の充実を図るために第2次調査を実施する。
1988年 昭和63年	富沢遺跡第30次発掘調査において2万年前の人類の生活跡と森林跡が発見され、仙台市は遺跡の重要性に鑑み、小学校の建設地を変更し保存と活用を決定。	
1989年 平成元年	保存科学・地質学・遺跡整備・都市工学・動物生態学など各界の学識者からなる基本構想策定委員会を設置し、富沢遺跡と山田上ノ台遺跡とともに活用する方針で「仙台市旧石器の森・原始古代村の整備および仙台市考古系総合博物館基本構想報告書」を策定。	
1990年 平成2年	「基本構想」において検討課題であった遺跡の保存処理工法について「富沢遺跡保存技術調査報告書」(仙台市考古系総合博物館基本計画)を策定。	
1991年 平成3年	「(仮称) 原始古代村・旧石器の森整備基本計画」を策定。	
1992年 平成4年	富沢遺跡保存館の建築基本設計、展示基本設計、富沢遺跡保存処理方式開発の業務委託、氷河期の森広場整備基本設計を行った。	
1993年 平成5年	富沢遺跡保存館の建築・展示実施設計、氷河期の森広場整備実施設計、遺構保存処理システム策定業務委託を行った。	
1994年 平成6年	富沢遺跡保存館の建設工事に着工。	
1995年 平成7年	正式名称が「仙台市富沢遺跡保存館」、愛称が市民公募をもとに「地底の森ミュージアム」と決定。	
1996年 平成8年	4月1日より富沢遺跡保存館の管理・運営は仙台市より委託された(財)仙台市歴史文化事業団があたることとなり、その組織ができた。建築工事および展示工事が3月に完了。また、遺構保存処理作業は8月、「氷河期の森」の造成工事は8月、植栽工事は10月に完了。11月2日に開館する。	
1997年 平成9年	5月18日 天皇皇后両陛下ご来館。	
1998年 平成10年	3月7日 入館者10万人達成。	
2000年 平成12年	4月15日 入館者20万人達成。	山田上ノ台遺跡の活用整備のために「縄文の森広場基本計画策定委員会」が設置される。
2002年 平成14年	8月24日 入館者30万人達成。	第3次発掘調査により後期旧石器時代の石器が多数発見される。

2004年 平成16年	4月1日 管理・運営する(財)仙台市歴史文化事業団が(財)仙台市市民文化事業団に統合されたことにより、事業団が指定管理者となる。	「仙台市縄文の森広場」の建設工事が始まる。
2005年 平成17年	5月19日 入館者40万人達成。	
2006年 平成18年		「仙台市縄文の森広場」が完成。7月15日に開館する。
2007年 平成19年	9月11日 入館者50万人達成。	7月15日 開館1周年記念イベント開催(記念植樹や演奏会などで祝う)。
2009年 平成21年		5月4日 入館者10万人達成。
2010年 平成22年	6月12日 入館者60万人達成。	
2011年 平成23年	3月11日 東日本大震災により休館。 6月14日 再開。	4月12日 再開。
2012年 平成24年	4月1日 管理・運営する(財)仙台市市民文化事業団が公益法人となる。	8月7日 入館者20万人達成。
2013年 平成25年	9月14日 入館者70万人達成。	
2015年 平成27年		11月3日 入館者30万人達成。
2016年 平成28年	6月12日 入館者80万人達成。	
2017年 平成29年	2月18日・19日 地底の森ミュージアム 開館20周年・仙台市縄文の森広場 開館10周年を記念して、シンポジウムを開催。	
2018年 平成30年	9月22日 入館者90万人達成。	
2019年 平成31年		4月30日 入館者40万人達成。
2020年 令和2年	4月11日～5月17日 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館。	
2021年 令和3年	3月26日～5月11日 8月31日～9月12日 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館。	
2022年 令和4年	3月17日 福島県沖地震復旧作業のため臨時休館。 7月9日 入館者100万人達成。	



地底の森ミュージアム キャラクター
富沢博士



仙台市縄文の森広場 キャラクター
ハナちゃん

[地底の森ミュージアム]



地下展示室



外観



1階展示室

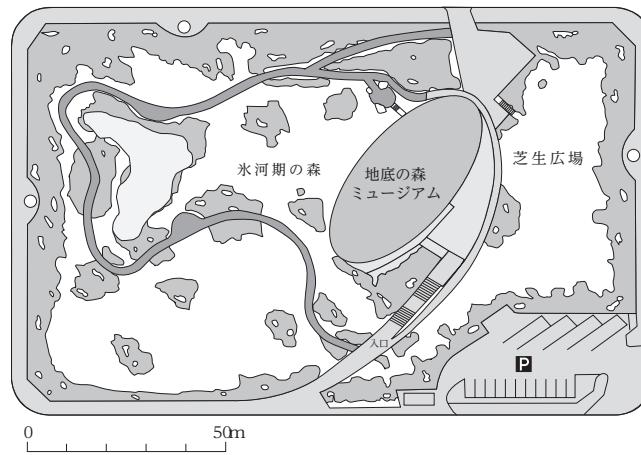


氷河期の森(夏)

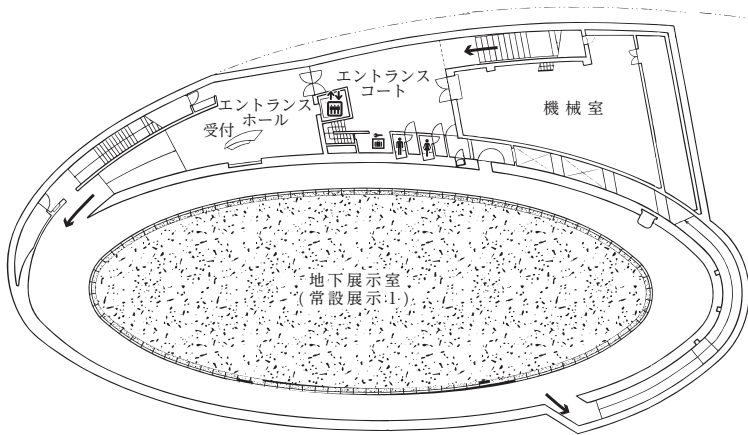
各室面積表

(㎡)

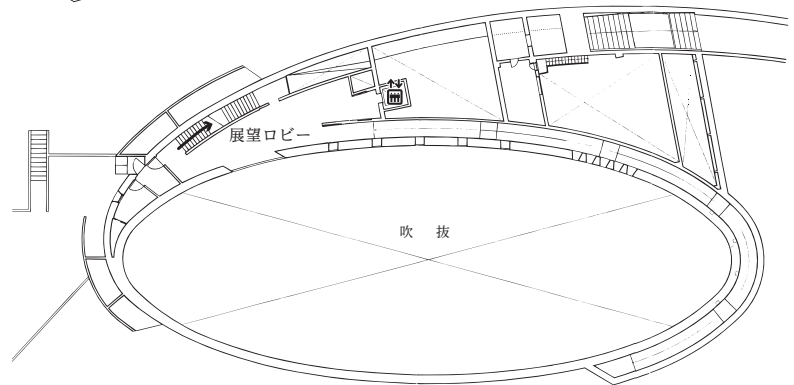
地 下	・地下展示室(常設展示1) ・エントランスホール ・エントランスコート(半野外) ・トイレ ・倉庫 ・機械室 ・E Vシャフト ・その他	916 113 76 9 15 185 6 14
地 下 中 地 下	・スロープ ・階段	124 31
中 地 下	・展望ロビー ・E Vシャフト ・その他	74 6 59
1 階	・1階展示室 ・企画展示室 ・展望ラウンジ ・研修室 ・事務室・学芸室 ・収蔵庫 ・荷解室 ・自販機スペース ・ボランティア室 ・廊下 ・階段ホール ・トイレ ・エントランス ・守衛室 ・機械室 ・E Vシャフト ・その他	311 87 170 78 99 58 17 6 7 28 81 45 7 6 40 6 18
ピット階 (21㎡)		21



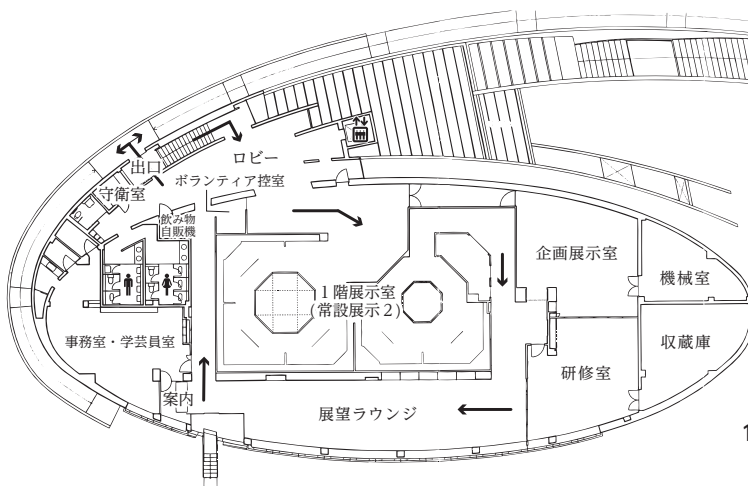
全体図



地下平面図



中地下平面図



1階平面図

[仙台市縄文の森広場]



縄文ムラゾーンとガイダンス施設



展示室



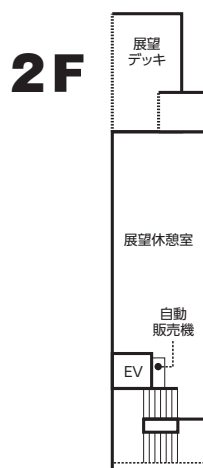
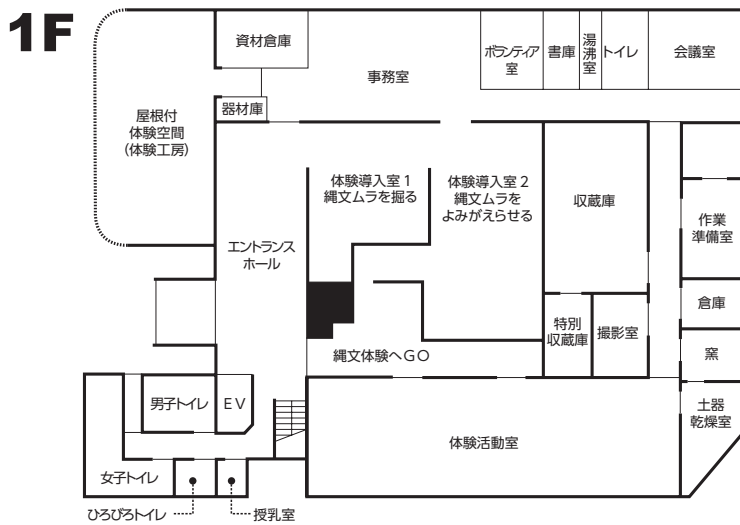
エントランスホール



体験活動室



展望休憩室



ガイダンス施設平面図

各室面積表

	(㎡)
体験導入室	207.93
体験活動室	160.58
屋根付体験空間	98.70
展望休憩室	69.90
収蔵庫	81.19
ボランティア室	17.10
事務室	68.08
会議室	25.42

4. 整備の目的と基本方針

地底の森ミュージアム

設置の趣旨・目的	仙台市では富沢遺跡第30次調査の貴重な成果から調査対象地区を保存するとともに、積極的に公開・活用していくこととし、樹木やたき火跡を大地から切り離さずそのままの姿で保存処理をして展示・公開する「富沢遺跡保存館」と、発見された樹木などをもとに旧石器時代の植生を復元する「氷河期の森」を一体的に整備した。 仙台市富沢遺跡保存館は、この保存された富沢遺跡の活用をととして、主に旧石器時代の歴史や文化の理解を深めることをねらいとしている。
基本的性格・基本方針	①富沢遺跡保存館は、世界的にも貴重な富沢遺跡の歴史的価値を人類共通の遺産として保存しながら、積極的に公開・活用し、市民が誇れる施設とする。 ②富沢遺跡保存館は、旧石器時代を中心としたテーマミュージアムである。ここでは発掘された2万年前の樹木やたき火跡を現地で保存処理して公開するとともに、発見された遺物などをととして当時の環境と人類の活動を生き生きとよみがえらせ、それを世界的な視野の中に位置付ける活動を行っていく。 ③富沢遺跡保存館の野外展示である「氷河期の森」では、富沢遺跡の調査から判明した氷河期の植生を復元し、自然の悠久なる偉大さが臨場感豊かに伝わるよう展示するとともに、市街地の中のオアシスとして市民に憩いの場を提供する。 ④富沢遺跡保存館は、来訪者に富沢遺跡がもつ歴史的な魅力をダイナミックに伝えるとともに、学校教育活動との緊密な連携を図りながら、生涯学習の視点から市民の発展的な創造力の涵養を積極的に支援する施設とする。
収蔵資料	当館の建設された経緯から、富沢遺跡から出土した仙台市教育委員会が所蔵する資料のうち、常設展示に関する資料及び旧石器時代に関する資料を借用し保管している。特に、富沢遺跡出土の球果や葉などの植物化石、シカのフンは大型冷蔵庫に収納するなど、資料の日常的な管理作業を必要とする。 【常設展示関係資料】 ①人工遺物 ○富沢遺跡第30次調査27層出土石器 111点 (K63～K167c) ○富沢遺跡第30次調査27層出土チップ 137点 ○富沢遺跡第30次調査25層など出土チップ 81点 ○富沢遺跡第8次調査出土縄文土器 1点 (A-1) ○富沢遺跡第30次調査出土石匙 1点 (K-30) ○富沢遺跡第30次調査出土弥生土器 1点 (B-5) ○富沢遺跡第30次調査出土石庖丁 1点 (K-25) ○富沢遺跡第30次調査出土須恵器坏 1点 (E-6) ②自然遺物 ○富沢遺跡第30次調査27層検出炭化物 1箱 (テンバコ32) ③模型・剥製 ○人類頭骨模型 9点 ○シカ剥製 (成獣、幼獣) 3体 ④富沢遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献

【保管資料】

①富沢遺跡出土遺物

- 富沢遺跡第30次調査25～27層出土植物化石 2,091点
- 富沢遺跡第30次調査25層出土フン 21ブロック
- 富沢遺跡第58次調査21～41層出土植物化石 398点
- 富沢遺跡第63次調査21～25b層出土植物化石 52点
- 富沢遺跡第66次調査33～35層出土植物化石 25点
- 富沢遺跡第68次調査24・26層出土植物化石 20点
- 富沢遺跡第88次調査9～13層出土植物化石 2,663点
- 富沢遺跡第88次調査9～11層出土フン 42ブロック
- 富沢遺跡第90次調査25～27層出土植物化石 1,525点
- 富沢遺跡第90次調査25層出土フン 20ブロック

②近隣遺跡出土遺物（仙台市指定有形文化財）

- 春日社古墳出土革盾 1点
- 春日社古墳出土鉄矛 1点
- 春日社古墳出土鉄鏃 1束（15本）

③寄贈図書

- 博物館及び教育委員会 など

④購入図書

- 定期購読図書：月刊文化財発掘出土情報・月刊考古学ジャーナル・月刊文化財・考古学雑誌・旧石器考古学 など
- 一般図書：旧石器時代・考古学・人類学・植物学などの関連図書 など

⑤イラスト及び版画 制作：細野修一

- 特別企画展関係 54点
- その他常設展示関係など 4点

⑥その他

- 二階堂亮氏寄贈：石斧1点や文献・写真など計24点（平成9年4月17日受）
- 高橋政治氏寄贈：日本国内及びニュージーランドの土器約50点、石器約330点など計約400点（平成14年8月19日受）
- 二階堂亮氏寄贈秋保電鉄旗立駅関連図面写し計4点（平成21年5月28日受）

仙台市縄文の森広場

設置の趣旨・目的	遺跡の整備は、地域社会あるいは都市空間のなかで、具体的な活用の姿を示し、社会的・文化的役割を担うことを目的とし、縄文ムラの復元によって、都市の歴史的背景の一端を共有できる空間と、体験活動を通して人と自然との関わりを知ることにより、創造的な市民の意識がはぐくまれる空間を創り出す。
基本的性格・基本方針	【整備の基本方針】 ①遺跡の保存整備：遺跡の保存状態を良好に維持し、後世に伝える。 ②縄文ムラの復元整備：縄文時代中期末葉を復元対象の時期として東地区に竪穴住居を数棟作り、継続的な発掘調査の成果を活かしながら、西地区を含めてその変遷を追うように建て替えを行ってムラの変化を示す。また、環境復元は現状の植生を考慮して行う。 ③市民の憩いの場としての整備：縄文人の生活した場所であることが体感できる市民の憩いの場としての整備を行う。 ④体験活動の場としての整備：ガイダンス施設や体験活動を行う場を整備する。 ⑤発掘調査の場としての整備：山田上ノ台遺跡の未調査地区を主な対象とした計画的な発掘調査を継続して行い、その成果を基に整備を行う。 【活動の基本方針】 ①体験活動：山田上ノ台遺跡の調査成果及び保存整備の意義を導入として、縄文人の生活と技術をテーマとする体験活動を展開する。体験活動は継続的な発掘調査と生活と技術の復元調査の成果をもとに充実していく。 ②発掘調査：体験活動を兼ねた発掘調査を行い、山田上ノ台遺跡の全体像を明らかにする。 ③情報の発信・受信・交流：体験活動の情報や縄文時代を中心とする発掘情報を広く市民に提供する。 ④講座・教室の開催：体験活動に関する内容を主とし、縄文時代の生活などを紹介する講座や新しい体験メニューを実践する教室を開催する。 ⑤学校・生涯学習施設との連携：学校との連携によって、小中学校などを対象とした体験学習を授業で積極的に行う。また、地底の森ミュージアムや市民センターなどの生涯学習施設と連携した活動を行う。 ⑥教職員対象講座の開催：小中学校の教職員を対象に、社会科、歴史、総合学習などの授業に関する支援と学習の場を提供する。 ⑦ボランティアの育成と支援：ボランティアの育成を行い、多様なボランティア活動を支援する。 ⑧地域住民との連携：山田地区の市民を対象に、山田上ノ台遺跡の重要性を理解し、活用してもらうためのさまざまな活動を行う。 ⑨資料収集・保管：調査・研究に関わる文献や資料の収集・整理と、遺跡出土遺物の保管を行う。
収蔵資料	当館は建設の経緯から、仙台市教育委員会が所蔵する山田上ノ台遺跡に関する常設展示資料、及びその他の出土資料を借用し、保管している。 【常設展示関係資料】 ①人工遺物 ○山田上ノ台遺跡出土縄文時代の資料 土器40点・石器141点・土製品7点 ○山田上ノ台遺跡出土旧石器時代の資料 石器11点 ②山田上ノ台遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献

【保管資料】

①山田上ノ台遺跡出土遺物

- 山田上ノ台遺跡第1次調査 旧石器時代の資料(テンバコ32)3箱・登録縄文土器344点・円盤型土製品1059点・土器破片99点・石鏃270点・石匙62点・石錐79点・篋状石器38点・その他石器9467点・石核(テンバコ32)2箱・凹石393点・礫石器(テンバコ32)6箱・磨製石器688点・焼礫(テンバコ32)6箱・石皿14点・扁平石(テンバコ32)5箱・打製石斧5点・磨製石斧40点・石製円盤11点・砥石12点・石刀3点・石剣1点・石棒1点・块状耳飾1点・登録土師器63点・土師器破片(テンバコ32)2箱・登録須恵器13点・須恵器破片(テンバコ32)2箱・陶磁器72点・釘68点・鏡1点・金属製品16点・木製品2点・墓石1基・石碑1基・人骨(テンバコ32)5箱・未整理(テンバコ32)1箱・土壌サンプル(テンバコ32)1箱
- 山田上ノ台遺跡第2次調査 旧石器時代の資料(テンバコ16)1箱
- 山田上ノ台遺跡第3次調査 石器(テンバコ32)2箱・接合資料26点・礫石器(テンバコ32)6箱・縄文土器(テンバコ32)1箱・炭化物(テンバコ32)1箱・土壌サンプル(テンバコ32)12箱
- 山田上ノ台遺跡第4次調査 未整理遺物(テンバコ32)5箱

②縄文関連遺跡出土遺物

- 下ノ内浦遺跡 遺物40点・パネル2枚
- 伊古田遺跡 遺物47点・パネル1枚
- 上野遺跡 遺物13点
- 王ノ壇遺跡 遺物4点
- 下ノ内遺跡 遺物2点・パネル2枚
- 山口遺跡 遺物2点
- 六反田遺跡 遺物2点・パネル1枚
- 大野田遺跡 遺物20点 パネル2枚
- 北前遺跡・高柳遺跡・三神峯遺跡・鍛冶屋敷遺跡 各1点

③寄贈図書

- 博物館及び教育委員会 など

④購入図書

- 定期購読図書：月刊考古学ジャーナル・月刊文化財・博物館研究 など
- 一般図書：縄文時代・考古学・博物館学 など

[地底の森ミュージアム]

1. 令和4年度事業報告

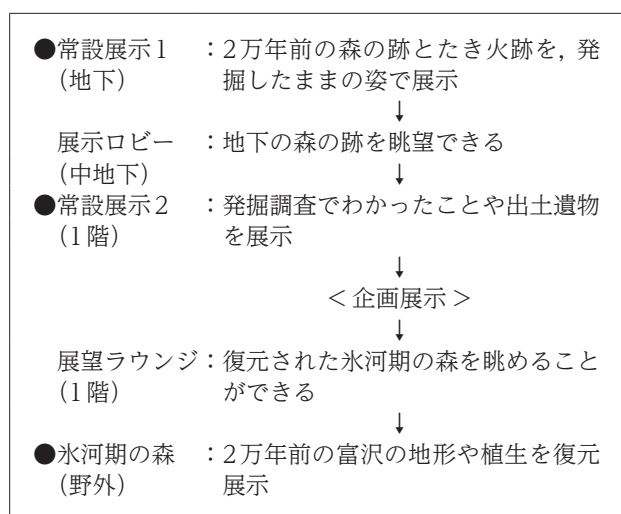
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和4年度事業も規模縮小や内容変更など大幅な見直しが必要となった。以下では、事業の実施状況・内容等の実績報告を記載した。そのため、昨年度刊行した『地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報2022』に掲載した事業計画とは異なっているところがある。

(1) 展示事業

①常設展示

i) 展示の構成

来館者は最初に地下の「常設展示1」で、発掘された2万年前の森の跡と人類の生活跡を見学する。次に発掘調査の成果を「常設展示2」を通して理解し、さらに企画展を開催している場合はこれを見学する。そして、最後に保存館より外に出て、復元された旧石器時代の森の中を散策しながら楽しめるように構成されている。なお、館内の展示サインは日本語・英語・中国語・韓国語の4ヶ国語表記としている。



ii) 展示の方法とねらい

現地保存型の遺跡博物館施設としての特徴を生かし、常設展示1で最初に2万年前の遺跡そのものを見ることから始まる展示構成は、来館者におおむね好評である。団体の見学も多く、展示説明を希望される場合は、職員及びボランティアスタッフが館内の説明を行いながら一緒にまわっている(新型コロナウイルス感染症拡大対策のため、ボランティアスタッフによる展示解説活動は4月1日(金)～4月11日(月)と8月5日(金)～10月7日(金)の間は休止した。4月12日(火)～8月4日(木)は実施し、10月8日(土)

より再開した)。野外展示は、環境学習の場として活用が広がるとともに、鳥類や両生類、昆虫類が来訪および生息する地域の緑地として機能している。

○常設展示1(地下展示室)

・展示：およそ900㎡の楕円形の大きな空間に広がる「本物」の遺跡と、壁面に広く映し出される湿地林(北海道浮島湿地)の風景と復元映画による演出により、富沢の環境と旧石器人の活動のようすを伝えている(昇降式スクリーンの不具合により、令和4年2月25日(金)からは復元映画を壁面に映し出す演出へと変更した)。

・保存公開：地下展示室では、温湿度の設定値の調整、地下水位については排水ポンプの調整によって、保存・公開に適した状態を維持することに努めた。室内は温度22～23度、湿度70%以上を保つようにしているが、経年劣化による空調設備などの不具合があり、設定値内に収まらない時期もある。保存処理及び管理については(株)C&P研究所に委託し、東北大学未来科学技術共同研究センターの猪股宏氏、東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科の佐々木淑美氏から指導・助言を得る「保存処理検討会」の内容に基づき、仙台市教育委員会と打合せを行いながら進めた。

※中地下に設置している遺跡スコープは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため使用休止を継続。

○常設展示2(1階展示室)

・展示：展示の構成は、順にa.氷河期へのいざない、b.富沢での人類の活動をテーマとする展示、c.富沢の自然環境をテーマとする展示、d.復元画と立体映像による展示となっている。b・cでの「富沢博士」が謎解きをしながら調査でわかったことを説明していく展示方法や、全体をとおして映像や模型、グラフィックパネルなど、視覚的な面を重視した展示は、大人から子どもまで楽しめる内容となっており、小・中学生の学習活動に利用されるなど、好感をもたれている。特に立体映像とジオラマ模型を組み合わせた展示は子どもたちに人気が高い。

○野外展示

・植生：仙台周辺には自生していない植物が多いことから、仙台市教育委員会と当館が打合せを行いながら、植生の維持と管理に努めている。また東北大学名誉教授の鈴木三男氏、東北大学植物園の牧雅之氏・伊東拓朗氏らに助言・指導を求める「植生検討会」も開催しながら進めている。また、植物生態調査・DNA分析については、国立大学法人東北大学学術資源研究公開センターへの委託研究として実

施している。

②企画展示

◎特別企画展

新型コロナウイルス感染症拡大により県外からの資料借用が限定的となるなどしたため、規模を縮小して通常企画展として実施し、以下に第102回企画展として報告する。

◎企画展

i) 第100回企画展「仙台の遺跡めぐり 再発見！富沢遺跡」

○会期：4月22日(金)～7月18日(月・祝)

○開催日数：72日間

○入館者数：9,784人

○会場：企画展示室

○展示内容：第100回目の節目となる企画展ということで、当館で保存・公開している富沢遺跡について改めて紹介した。富沢遺跡から出土した各時代の資料のほか、長町南周辺の近年の移り変わりを写真パネルで紹介した。



第100回企画展チラシ



第100回企画展 ギャラリートーク

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター(4色) B2 500枚, チラシ(表面4色・裏面1色) A4 6,000枚

○協力機関：仙台市教育委員会

○関連行事

・関連講座「発掘！富沢遺跡」

日時：5月28日(土) 13:30～15:00

講師：早川太陽氏(仙台市教育委員会文化財課)

会場：研修室

参加者数：47人(会場27人, オンライン20人)

・ギャラリートーク

日時：5月15日(日)・6月5日(日)・7月10日(日)

13:30～14:30

講師：当館職員

参加者数：のべ16人

・関連イベント「探検！富沢遺跡～展示室をまわって謎を解こう！～」

日時：6月26日(日) 13:30～15:00

会場：館内

参加者数：31人



第100回企画展 関連講座

ii) 第101回企画展「ガラスにまつわるエトセトラ」

○会期：9月2日(金)～11月27日(日)

○開催日数：72日間

○入館者数：8,443人

○会場：企画展示室

○展示内容：秋保に工房をかまえるガラス作家・村山耕二氏が広瀬川や名取川など日本・世界各地の砂を溶かして生み出したガラス作品を通して、制作方法や色の発色などガラスの魅力を紹介した。また、宮城・仙台の遺跡から発掘された古代から近現代のガラス製品を展示した。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネル・動画による展示

○印刷物：ポスター(4色) B2 400枚, チラシ(表面4色・

裏面1色) A4 5,500枚

○協力機関：石巻市博物館，AGC 株式会社，海馬ガラス工房，仙台市教育委員会，仙台湾鳴り砂探究会，東北大学埋蔵文化財調査室，東北歴史博物館，登米市歴史博物館，宮城県教育委員会(五十音順)

○関連行事

- ・関連イベント「鳴り砂を鳴らしてみよう！」

日時：9月18日(日) 10:00～12:00
13:00～16:00



第101回企画展チラシ



第101回企画展 展示(村山耕二氏の作品)



第101回企画展関連イベント

協力：仙台湾鳴り砂探究会

会場：展望ラウンジ

参加者数：104人

- ・関連イベント「長町南の砂から生まれたガラス玉でアクセサリーづくり～管玉と小玉を添えて～」

日時：10月23日(日) 13:30～15:00

11月20日(日) 10:30～12:00

13:30～15:00

11月27日(日) 13:30～15:00

会場：研修室

参加者数：のべ62人

- ・関連講座「ガラスのはなし」

日時：10月30日(日) 13:30～15:00

講師：村山耕二氏(海馬ガラス工房)

中川浩司氏(AGC 株式会社)

会場：研修室

参加者数：36人(会場24人，オンライン12人)

- ・ギャラリートーク

日時：10月2日(日)・11月6日(日) 13:30～14:30

講師：当館職員

参加者数：のべ30人

- ・関連グッズ「長町南の砂を溶かしてつくったガラスの“ことり”」

販売数：15個

iii) 第102回企画展「遺跡のミ・カ・タ」

○会期：1月5日(木)～2月26日(日)

○開催日数：45日間

○入館者数：3,546人

○会場：企画展示室

○展示内容：遺跡の発掘調査では出土した土器や石器などの道具，骨や種子などの自然物，さらには埋まっていた土自体もいろいろな方法で調べられている。その見方(分析・調査の方法)と，解き明かされた昔の暮らしの一端を紹介した。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター(4色) B2 600枚，チラシ(表面4色) A4 6,000枚，パンフレット(16ページ・カラー) A4 500部

○広報：市政だより・ホームページ・各種広報誌などにより宣伝を行った。また，ポスター・チラシを関係機関・各所に配布した。

○協力機関：秋田県埋蔵文化財センター，仙台市教育委員会，花巻市総合文化財センター，福井県年縞博物館，山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館，(公財)山形県埋蔵

文化財センター（五十音順）



第102回企画展ポスター



第102回企画展 展示

(2) 普及啓発事業

①学校教育との連携

i) 利用状況

令和4年度の総入館者数における小・中学生の割合は20%であり、そのうちの76%が学校利用であった。仙台市内の学校の利用状況を見てみると、小学校は5月11日(水)から利用が始まり、6月と7月に集中した。近隣の小学校には、総合的な学習の時間と図画工作など異なる教科での学習活動や季節毎の自然観察など、複数回利用する学年もみられた。中学校は職場体験7校26人の利用があった。

ii) 利用学習

仙台市内の小・中学校と連携して授業を実践する事業である。各校における博物館活用を、当館と縄文の森広場の職員とボランティアが授業を行う形で実施してきた。今年

度は申込み後に1校キャンセルがあったが、15校1,059人が当館を利用した。キャンセルした1校は中学校で、それ以外はいずれも小学6年生の利用であった。密集・密接を避けるため、児童数に応じて2つから3つのグループに分け「展示見学(館内・野外)」「石器使用体験」の学習プログラムをローテーションする形で実施した。

iii) 職場体験活動

市内中学校からの職場体験活動の申し込みに基づき、7校26人の中学生を受け入れた。1校につき3日間3～4人程度を受け入れて実施した。体験内容は、館内掲示物の作成、図書整理、野外展示の巡回などである。

iv) 博物館実務実習

県内の大学に通う学生、もしくは県外の大学に在籍する宮城県内出身の学生を中心に希望者(最大定員12人)を受け入れている。9月6日(火)～9月10日(土)の期間に、東北生活文化大学1人、東北学院大学2人、尚絅学院大学2人、宮城学院女子大学2人、筑波大学1人、東北芸術工科大学2人、計10人が参加した。



学芸員課程実務実習

v) 教職員機関研修

学校教育との連携を推進するため、仙台市教育センターの機関研修として行っている。8月5日(金)に実施し、2人が参加した。

vi) 地底の森サポーター

博物館における接遇経験や社会人としての意識を養うことを目的として、仙台市近郊の大学生有志にサポーターとして登録してもらい、当館が実施するイベントなどを補助してもらう事業である。2大学6人(東北学院大学・尚絅学院大学)の登録があり、のべ12人が活動した。

②各種普及活動

i) 体験学習

旧石器時代のテーマミュージアムとして、旧石器時代の生活技術などについて、体験を通して学ぶ事業を積極的に実施した。また、水田遺構が多数発見されている富沢遺跡の特徴を紹介する体験教室「親子でつくろう古代米」など、指定管理業務以外にも自主財源事業を実施した。

○たのしい地底の森教室

富沢遺跡や野外展示「氷河期の森」を活用したイベントなど、来館者が当館に親しみをもってもらえるような体験や講座を実施した。事業例としては「仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会」の協力による地底の森ミュージアムをテーマにしたオリジナル紙芝居の上演、仙台市立仙台工業高等学校模型・動画部による当館の松ぼっくりを使用したワークショップ、大人のための絵本よみやさん長澤香氏による当館オリジナル絵本「跡」の読み聞かせイベントなどを計10回実施した。

日程：4～1月 月1回程度の土・日・祝

場所：地下展示室・研修室・企画展示室・展望ラウンジ・

野外展示「氷河期の森」他

参加者数：のべ625人



たのしい地底の森教室「絵本『跡』読み聞かせ」

○地底の森フェスタ2022

開催日程を変更し、「おいでよ地底の森2022秋」として3日間に日程を分散させ、日替わりメニューの体験活動を行った。事前申込および当日受付の内容で実施した。期間中は「ビンゴでさんさく！氷河期の森の秋」と題して、野外展示の植物や鳥などをビンゴゲームのように探すカードを作成し配布した。事前準備作業と10月9日（日）のイベント「地底の森フェスタ」の実施は、ボランティア会の協力を得ながら実施した。実施にあたっては、仙台市立仙台工業高等学校模型・動画部、仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会にも協力いただいた。

日時：10月8日（土） 13:00～13:45, 14:00～14:45,
15:00～15:45

内容：「秋のマツボックリカー ハロウィンのひととき」
（協力：仙台市立仙台工業高等学校模型・動画部、事前申込制）

日時：10月9日（日） 10:00～15:00

内容：やり投げコーナー（雨天のため午後は石錐体験に変更）、編布体験コーナー、石器体験コーナー、森の名札コーナーを実施。実施時間帯はコーナーごとに異なる（協力：当館ボランティア会）。

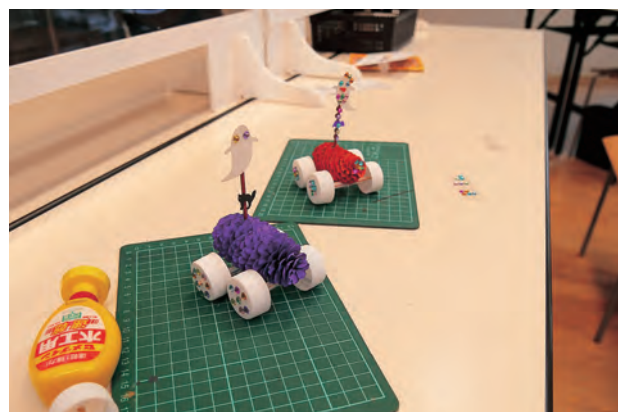
日時：10月10日（月・祝）

①10:00～10:30 ②11:30～12:00

③14:30～15:00 ④15:10～15:40

内容：①②「森のケーキづくり」（事前申込制）、③④「紙芝居上演『冒険しんちゃん地底のたび』」（協力：仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会）

参加者数：のべ287人



おいでよ地底の森2022秋（秋のマツボックリカー）



おいでよ地底の森2022秋（地底の森フェスタ）

○体験コーナー「石器をつかってみよう」

日時：日曜・祝日の13:30～15:00

対象：当日の入館者

内容：実際に紙を切って、石器の切れ味を体験してもらう。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として休止して

きたが、6月12日(日)より再開。

○歴史的生活体験教室「親子でつくろう古代米」

事業団の自主事業。古代米(紫黒米)の栽培・収穫をとおり、農業の歴史を実体験してもらうことを目的とした。さらに館隣接地での栽培により、地域住民などとの交流を図ることで、当館が市民協働・連携など、地域活性化の拠点となることを目標とした。事前申込者20組58人を対象に計7回の作業・行事を実施した。

第1回 5月15日(日)

オリエンテーション・田植え(49人参加)

第2回 6月18日(土)・19日(日)

土器づくり(53人参加)

第3回 7月2日(土)・9日(土)

草取り・田んぼ探検(47人参加)

第4回 7月16日(土) 石庖丁づくり(49人参加)

第5回 9月17日(土) 稲刈り(40人参加)

第6回 10月15日(土)

土器焼き(雨天順延のためスタッフのみで実施)

第7回 11月5日(土) 収穫祭(38人参加)



親子でつくろう古代米(田植え)

【古代米の稲わらで正月飾りづくり】

栽培した稲わらを活用し、野外展示「氷河期の森」の植物を利用して、正月飾りの飾り付けを体験する事業を行い、古代米づくりの活動の紹介や古代米の販売を促進した。

日時：12月18日(日) 10:00～10:30, 11:30～12:00,
13:30～14:00

会場：研修室

参加者数：のべ35人

○地域交流促進事業「2022 森の響き」

事業団の自主事業。地域の方々が気楽に参加しやすい形で、当館をより身近に感じられるよう、継続性を持った事業展開を意識し、地域の団体や組織との連携をさらに進め

ることを目標に実施した。今年度は「コンサート編」と「たき火と星編」の2つを実施した。

「コンサート編」では、宮城県仙台三桜高等学校音楽部が閉館後の地下展示室で演奏した。実施にあたっては、事前申込制で観客数制限・規制退場など感染対策に配慮した。

「たき火と星編」は「ながまち学びネット」と共催した。また観望会講師として天文ボランティア「うちゅうせん」を招き、事前申込制で実施した。天候不良のため、観望会は館内での映像を用いた説明会となった。

【コンサート編】

日時：10月29日(土) 17:30～18:00

会場：地下展示室

参加者数：61人



2022森の響き コン서트編

【たき火と星編】

日時：11月23日(水・祝) 17:00～19:00

会場：芝生広場・研修室

参加者数：40人



2022森の響き たき火と星編

○歴史・芸術融合事業「ミュージアム・シアター“狩人登場！！”」

事業団の自主事業。演劇の手法を通じて当館の展示をよ

地底の森ミュージアム

り理解してもらう「ミュージアム・シアター」として、「劇団短距離男道ミサイル」の劇団員が、旧石器時代の狩人に扮して館内外に登場した。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館者との接触や交流を控えた「鑑賞型」を一般来館者向けに実施した。また、地下展示室にて演劇要素を強めた「富沢博士版」を複数回実施し好評であった。「地底の森アーカイブス」事業と連携し、オンライン配信イベントや360度・VR動画の撮影も行った。

開催期間：6～8月(前期)、1～3月(後期)

回数：25回



狩人登場「富沢博士版」



狩人登場(VR動画撮影)

○映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」

事業団の自主事業。記録撮影にまつわるワークショップを開催し、参加者一人一人が思う当館の魅力を撮影してもらう。収集した写真や動画は、館内展示・YouTubeやFacebookなどのSNS・ホームページなどで公開するとともに、映像記録として蓄積・保管している。令和4年度はワークショップ参加者とともに動画を6作品制作した。また、歴史・芸術融合事業「ミュージアム・シアター“狩人登場！！”」で出現する狩人の様子を撮影し、360度・VR動画を3作品制作した。

- ・「富沢博士に聞いてみよう！～地底の森ミュージアムに旧石器時代の狩人出現！？～」

日時：8月23日(火) 18:00～18:45

会場：オンライン配信限定

参加者数：9人

- ・「撮って伝える！野外展示『氷河期の森』の魅力」

日時：(第1回)8月28日(日) 13:00～15:30

(第2回)9月25日(日) 13:00～15:30

講師：門傳一彦氏(映像クリエイター)

会場：研修室、野外展示「氷河期の森」

参加者数：9人



地底の森アーカイブス 動画制作ワークショップ

ii) 各種講座

○考古学講座

生涯学習事業の一環として、「旧石器時代を探る」をテーマに、一般を対象に最新の研究成果を取り上げる講座を2回実施した。オンライン配信を併用して行い、オンライン配信には県外からも多くの申し込みがあった。

第1回「旧石器時代研究最前線」

日時：2月11日(土・祝) 13:30～15:00

講師：森先一貴氏

(東京大学大学院人文学系社会学科 准教授)

会場：研修室

参加者数：77人(会場48人、オンライン29人)



第1回考古学講座

第2回「ヨルダンの旧石器遺跡に探るホモ・サピエンス
繁栄の謎」

日時：3月12日(日) 13:30～15:00

講師：門脇誠二氏(名古屋大学博物館 教授)

会場：研修室

参加者数：78人(会場45人, オンライン33人)



第2回考古学講座

○富沢ゼミ

富沢遺跡や、その周辺地域の歴史・文化財を紹介する。
令和4年度より新しく宮城県内の考古資料を取り扱う
ミュージアムをテーマにした講座を行った。

第1回「昭和時代の写真で振り返る「太白区」～地底の森
ミュージアムができるちょっと前～」

講師：佐藤正実氏(風の時編集部 代表)

日時：9月11日(日) 13:30～15:00

会場：研修室

参加者数：39人



第1回富沢ゼミ

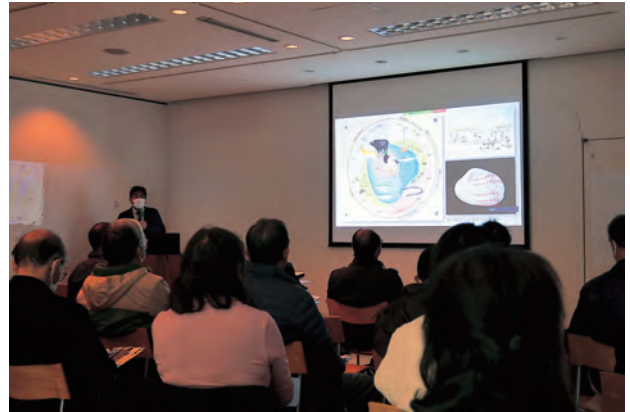
第2回「みやぎの考古なミュージアム ～祝30周年！奥
松島縄文村歴史資料館～」

講師：菅原弘樹氏(奥松島縄文村歴史資料館 館長)

日時：11月19日(土) 14:30～16:00

会場：研修室

参加者数：50人(会場34人, オンライン16人)



第2回富沢ゼミ

iii) 市民文化財研究員

応募者8人を対象に、学芸員による講義や各種体験、遺
跡見学会など、遺跡や考古学に関する学習支援を実施した。
そのうち5人が1年間の活動成果として、自身で設定した
テーマをもとにレポートを作成した。作成したレポートは
当館ホームページにて公開している。



市民文化財研究員(館外活動・郡山遺跡見学)

iv) ボランティア活動

ボランティア登録者は、昨年度からの継続者60人に、新
規5人を加えて65人であった。新型コロナウイルス感染症
の影響で活動内容を制限した期間もあったが、来館者へ
の展示解説や各種体験活動における補助などが行われた。
活動実績はのべ559人, 2,155時間である。新規登録者向
けの養成講座を5回実施した。スキルアップを目的とした
実技研修1回, 育成講座2回, 仙台市縄文の森広場との合
同による視察研修2回を行った。



活動のようす（おいでよ地底の森2022春）

・視察研修

日時：①10月20日（木） 10:00～10:50
11:00～11:50

②11月10日（木） 10:30～11:30

視察先：①富沢遺跡（仙台市太白区）

②蒲生御蔵跡（仙台市宮城野区）

講師：①②とも仙台市教育委員会文化財課職員

参加者数：①のべ14人、②5人



視察研修

・実技研修「藁帯と藁草履づくり」

講師：当館職員

日時：3月23日（木） 13:00～16:00

参加者数：15人

・養成講座①「解説研修」

日時：3月5日（日） 14:45～16:00

講師：当館職員

会場：研修室

参加者数：15人

・養成講座②「森の解説 はじめの一步（初級編）」

日時：3月21日（火・祝） 13:30～14:30

講師：当館職員

会場：野外展示「氷河期の森」

参加者数：19人

v) 運営懇談会

当館に隣接する町内会・小中学校・市民センターなどの方々に参加を依頼し、館事業を紹介し、運営のあり方について意見交換を行う場である。アフターコロナの学校連携について情報収集することを目的に、近隣学校への聞き取り調査を実施した。

①鹿野小学校 1月11日（水）

②長町南小学校・大野田小学校 1月13日（金）

vi) 出前対応

学校・市民センターなどからの依頼を受け、出前（オンライン）対応を行い、地域貢献を図るとともに館の広報にも努めた。

・大野田小学校5年生

4月26日（火） 10:45～12:20

4月28日（木） 10:45～12:20

6月14日（火） 8:45～12:20

・こどハピ オンライン講座

8月26日（金） 18:00～19:00

11月26日（土） 17:00～17:45

3月17日（金） 17:00～18:00

・オーエンス泉ヶ岳自然ふれあい館「親子チャレンジキャンプ」

9月3日（土） 11:00～17:00

・宮城県仙台三桜高等学校「探究学習」

9月6日（火） 13:00～15:40

・島根県三瓶小豆原埋没林公園「月イチガク」【オンライン対応】

9月24日（土） 14:00～15:30

・長町南小学校3年生

10月19日（水） 9:20～11:40

・落合市民センター「落合栗生実年学級」

11月17日（木） 10:00～11:30

・SMMA ミュージアムユニバース「石器をつかってみよう」

12月3日（土） 13:00～15:50

・折立市民センター「しめ飾りづくり」

12月9日（金） 10:00～16:30

・八本松市民センター「親子のわくわくぼうけんタイム」

12月17日（土） 10:00～11:00

- ・長町南小学校「校内放送」
2月3日(金) 12:30 ~ 12:45
- ・太白区中央市民センター「老壮大学」
2月10日(金) 10:00 ~ 11:30
- ・西多賀市民センター「寿大学」
2月15日(水) 10:00 ~ 11:00

vii) 学校・地域との協働事業

学校・市民センターと協働し、生涯学習活動や地域貢献のために以下の取り組みを行った。

- ・大野田小学校5年生学習成果発表資料展示
7月30日(土)～8月11日(木・祝)
- ・富沢市民センター ふれあいまつり2022「石錐使用体験」 10月2日(日)
- ・長町南小学校3年生図工作品展示
11月19日(土)～11月23日(水・祝)



大野田小学校5年生学習成果発表資料展示

ix) 国際交流

10月7日(金)～10日(月・祝)にかけて大韓民国京畿道漣川郡全谷里で開催された第29回漣川旧石器祭(文化遺産教育と遺跡保存のための国際ワークショップ・世界旧石器体験広場)に縄文の森広場の職員とともに参加し、石器づくりの実演パフォーマンスと石器を使用したワークショップを実施した。参加者は782名。同伴者を含める



漣川旧石器祭

と2,000名以上の参加があった。

x) 新型コロナウイルス感染症拡大を受けた情報発信

臨時休館中、野外展示「氷河期の森」を散策している来館者に植栽植物が展示品であり、貴重な資料であることを知っていただくことを目的に、花など見ごろを迎えている植物の名前や特徴などを紹介する表示を掲出した。そのほか春と秋限定で、来館者が持ち出すことができるようピンゴカードを設置し、野外展示を自由に見学していただく「ピンゴでさんさく! 氷河期の森」も行った。またボランティアスタッフによる展示解説活動ができない期間があったため、令和2年度より開始した、見学ポイントや遺跡の重要性などの概要をまとめた「みどころマップ」の配布を継続して行った。

(3) 調査研究事業

○遺跡に関する各種分析調査と遺跡保存

保存公開している遺跡の現状を把握し、問題への対処などを検討するために保存処理検討会を毎年開催している。今年度は6月23日(木)に行い、遺跡保存状態の確認と外部有識者を招いての保存処理研究会の内容などについて検討を行った。

1月20日(金)・21日(土)に、開館から26年を経過した富沢遺跡保存の現状と課題の確認、最新事例を含めた日本・世界の遺跡保存の方向性について、外部有識者と意見交換を行う富沢遺跡保存処理研究会を、北海道・東北保存科学研究会の協力のもと開催した。外部有識者として高妻洋成氏(奈良文化財研究所 副所長)、松井敏也氏(筑波大学 教授)、小椋大輔氏(京都大学 教授)を招聘し、猪股宏氏(東北大学 特任教授)、佐々木淑美氏(東北芸術工科大学 准教授)にも参加していただいた。参加者数は20日が20人、21日が49人であった。有識者からは、富沢遺跡の保存を継続していく上で塩類析出と支持体の劣化が大きな課題であることが指摘され、詳細な調査と分析を継続していくことの重要性を指摘された。遺跡の状態に応じた対処を行うのではなく、遺跡の状態を正確に把握するための基礎データを収集し、原因把握を重視する方向性を提案された。また、データに基づいた保存処理作業の検討・実行・評価を繰り返して、開館50周年を目指して欲しいとのエールもいただいた。これまでの保存処理方法を続けていく点と見直す点を明確化し、遺跡の価値を来館者と共有できるように、より積極的な情報発信を意識することなど、今後の遺跡保存の方向性・考え方に関して貴重な意見を多数いただく機会となった。

遺跡に関する分析調査として、地下水排水ポンプ（WP-1・2・3）配管構造の把握と地下水の状況を把握するために撮影と記録を実施した。学校法人東北芸術工科大学と、土壌表面の析出物及び藻類などについての共同研究を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかった。



富沢遺跡保存処理研究会

○研究報告の刊行

富沢遺跡保存館の調査研究活動の成果を発表し、これからの博物館運営に役立てることを目的として、『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2022』を刊行した。「韓国・漣川旧石器祭への参加報告と今後の課題」と題して、過去5回の漣川旧石器祭への参加報告を行ったほか、当館職員1名・縄文の森広場職員2名の調査研究報告を掲載した。

2. 施設管理

(1) 定例保守

月1回の保守点検日（1～11月は第4木曜日、12月は第3月曜日）を設け、再委託業務仕様書に基づき建物・設備の定期点検を実施した。

(2) 施設・設備などの修繕

開館から26年を経過した施設・設備は経年劣化による不具合が多発しており、緊急性を優先し修繕を行った。

- ①施設の雨漏れ対策：警備室前出入口付近の外部スロープ床面修繕。
- ②令和4年3月16日（水）に発生した地震による被災箇所
の修繕。
- ③消防用設備：定期点検で指摘のあった不良器具の交換修繕。
- ④空調設備：機器・設備などの交換修繕を随時実施したが、

地下展示室の温湿度管理システムに不調があり、不安定な状態は改善されていない。

- ⑤トイレ設備：不具合が発生した器具類の交換及び修繕。
- ⑥野外展示：芝生広場の進入防止柵交換修繕。
- ⑦正面玄関出入口：床及び通路舗装修繕。
- ⑧エレベータ機械室前：排水ポンプ2台交換修繕。

(3) 新型コロナウイルス感染症対策

「スタッフのマスク着用」「手洗い・うがい、アルコール消毒の励行」「消毒液を使用したこまめな清掃」「お客様との一定の距離の確保」「受付・案内での透明アクリル板の設置、料金やチケットのトレーでの受渡し」などの感染対策を講じた。特に展示室内およびトイレなどの来館者が手を触れる可能性がある場所は、定時でアルコール消毒を実施している。また来館者に対しても、手指消毒用アルコールの設置・マスクの着用（咳エチケット）・来館者同士の距離確保・入場制限・発熱や体調不良者の入館辞退などへの協力を依頼し、感染拡大防止に努めた。

3. 利用状況

令和4年度の開館日数は289日、入館者数は31,419人であった。平成31年度以来3年ぶりに、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館期間の無い年となった。前年度入館者数22,126人に比べ9,293人増、前年度比は142%である。

月別の入館者数を見ると、4月が前年度比728%となったほか、5月・8月は200%以上、その他の月もほとんどが100%以上（12月・1月・2月は前年度比80%台）で、大変多くの来館者を迎えることができた。

内訳を見ると、全体に占める有料入館者の割合は53%で、その90%近くが一般、次いで小・中学生となっている。なお、平成8年11月2日の開館から令和4年3月31日までの総入場者数は1,022,135人となった。

令和4年7月9日（土）には開館以来100万人目の来館者を迎え、当日は記念の式典をエントランスホールで行った。記念入館者に仙台市教育委員会文化財課課長・当事業団理事長より、記念品と花束を贈呈した。

地域に根差し、活性化に資することを引き続き重視し、生涯学習活動に取り組んだ。「おいでよ地底の森2022春」開催時の仙台工業高等学校模型・動画部との協働、長町南小学校・大野田小学校など近隣小学校への出前授業などである。加えて、近隣の市民センターの催しにも積極的に出前を行った。落合市民センター・折立市民センター・太白

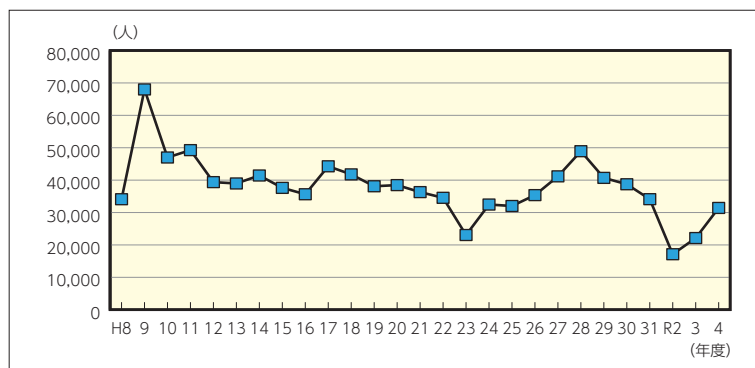
区中央市民センター・西多賀市民センター・八本松市民センター主催講座への講師派遣、例年参加している富沢市民センターまつりへの協力などを行った。高校と連携を深め

る「探求学習」は、宮城県仙台三桜高等学校と全3日間開催した。

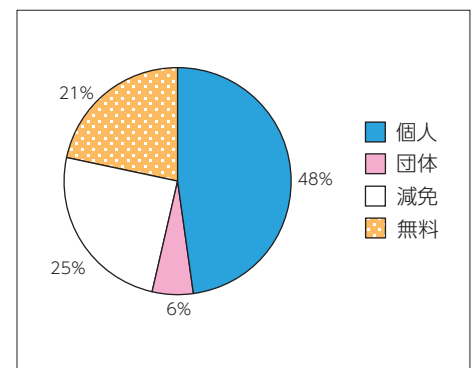
月別入館者数（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

月	有 料							無 料					合計
	個 人			団 体			小計	減 免			無 料 入館者	小計	
	一般	高校生	小・中学生	一般	高校生	小・中学生		一般	高校生	小・中学生			
4	858	12	71	1	0	0	942	160	0	223	525	908	1,850
5	1,426	30	94	3	0	113	1,666	240	4	695	540	1,479	3,145
6	1,079	11	98	251	0	280	1,719	284	30	750	603	1,667	3,386
7	1,426	19	72	315	0	30	1,862	189	0	829	553	1,571	3,433
8	1,963	65	219	144	0	0	2,391	379	2	668	489	1,538	3,929
9	1,454	9	60	3	0	40	1,566	267	0	246	517	1,030	2,596
10	1,218	46	64	8	35	138	1,509	350	0	358	845	1,553	3,062
11	1,038	27	16	88	0	0	1,169	485	0	587	734	1,806	2,975
12	550	9	17	0	0	0	576	89	0	50	447	586	1,162
1	782	8	37	30	0	0	857	159	2	162	519	842	1,699
2	976	19	17	102	0	0	1,114	173	0	113	514	800	1,914
3	1,116	47	116	217	0	0	1,496	172	0	119	481	772	2,268
計	13,886	302	881	1,162	35	601	16,867	2,947	38	4,800	6,767	14,552	31,419

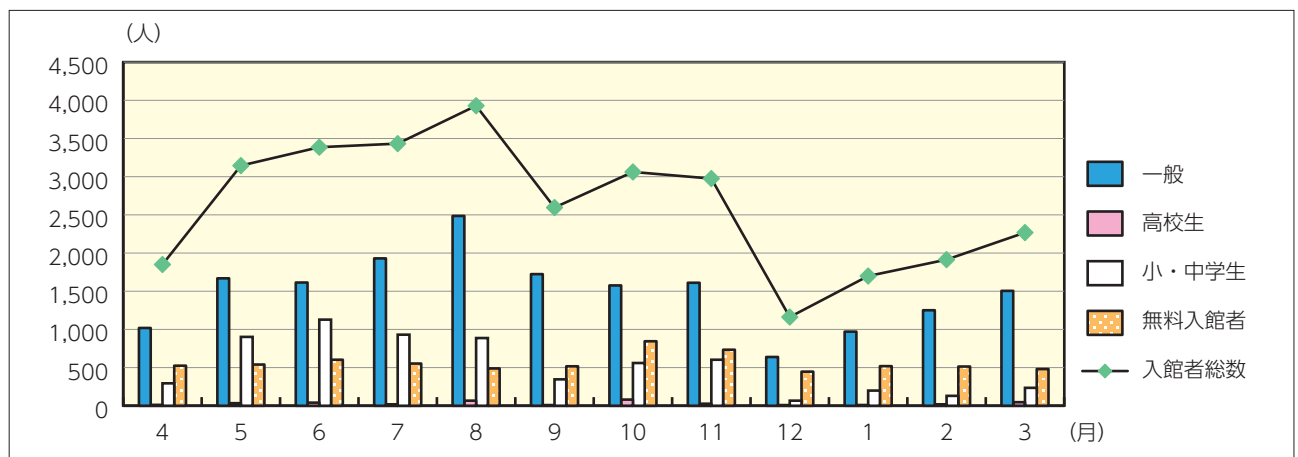
開館年度からの入館者数の推移



入館者内訳



月別入館者数



4. 入館者アンケート

入館者の貴重な意見を活かした館活動を目指して、アンケートを実施している。記入された内容・要望・意見については館内で検討を行い、そのフィードバックを『お客様の声へのお答え』として展望ラウンジに設置した掲示板にてお知らせしている。同時に要望や改善については、できるだけ迅速に対応するよう努めている。アンケート用紙は常時所定の場所に設置し、毎日回収している。

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から休止した。

5. 令和5年度事業計画

(1) 展示事業

①常設展示

i) 常設展示1(地下展示室)

富沢遺跡の発掘調査面の展示

ii) 常設展示2(1階展示室)

出土資料をもとに調査成果を分かり易く解説した展示

iii) 野外展示「氷河期の森」

2万年前の植生を復元した展示

②企画展示

◎特別企画展

「狩人の考古学(仮)」

会期：1月16日(火)～3月10日(日)

内容：富沢遺跡で活動した人々は、いったいどんな人たちだったのであろうか。旧石器時代の他地域の遺跡の出土資料や縄文時代、弥生時代、また近現代に至るまでの「狩人」たちの道具やくらしに焦点をあてて展示を行う。他地域、各時代における「狩人」の比較を行うことで、改めて富沢遺跡の「狩人」をとらえなおす。また、自主事業で行ってきたミュージアム・シアターの活動を紹介する。

○関連行事

・関連講座

日時：1月21日(日) 13:30～15:00

講師：山岡拓也氏

(静岡大学人文社会科学部社会学科 教授)

◎企画展

i) 第103回企画展「仙台の遺跡めぐり〈長町駅東遺跡〉 長町に操車場があったころ」

会期：4月21日(金)～7月17日(月・祝)

内容：近年、新しい街並みに変化し続ける長町には、大正から平成にかけて営まれた広大な貨物列車の操車場があった。本展では、長町駅東遺跡から出土した汽車土瓶を展示するとともに、東北福祉大学 地域創生推進センター『鉄道交流ステーション』資料系の協力のもと操車場があった時代から現在までの長町駅周辺の移り変わりを紹介する。
協力：東北福祉大学 地域創生推進センター『鉄道交流ステーション』資料係

○関連行事

・関連講座「駅弁容器と汽車土瓶の考古学」

日時：6月10日(土) 13:30～15:00

講師：河野真理子氏(日本考古学協会会員)

会場：研修室

・ギャラリートーク

日時：5月14日(日), 6月4日(日), 7月2日(日)

15:00～15:45

講師：当館職員

会場：企画展示室

・関連イベント「HO ゲージ鉄道模型運転会～長町操車場を走った車両たち～」

日時：4月29日(土・祝), 4月30日(日), 5月27日(土),

5月28日(日), 6月24日(土), 6月25日(日)

10:00～15:00

協力：みちのく鉄道応援団, 宮城野鉄道研究会

会場：研修室

ii) 第104回企画展「復元画から読み解く氷河期の森」

会期：9月1日(金)～11月26日(日)

内容：富沢遺跡を題材とした復元画と野外展示「氷河期の森」に植栽された植物を紹介する。復元画に描き込まれた要素(樹形や地形など)を読み解きながら、これまで継続して行われてきた富沢遺跡の発掘調査、植物化石などの分析結果を提示し、それらの成果を展示する。あわせて野外展示「氷河期の森」植栽植物の特徴や観察ポイントなども紹介する。

○関連行事

・ギャラリートーク

日時：10月28日(土), 11月25日(土) 11:00～

講師：当館職員

会場：企画展示室

(2) 普及啓発事業

①学校教育との連携

i) 利用学習（縄文の森広場と合同で実施）

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主対象とし、通年で当館の常設展示の見学・体験学習と縄文の森広場の各種縄文体験による学習を行う。

ii) 職場体験活動

市内中学校からの要請に応じて、通年で職場体験活動を受け入れる。

iii) 博物館実務実習

学芸員資格取得を目指す大学生（定員10人程度）を受け入れ、実習を行う。

期日：9月5日（火）～9月9日（土）

iv) 教職員利用研修

市内小・中学校の教職員を対象として、当館の展示と学習活動を紹介し、学校教育との連携のあり方を検討する。

日時：8月4日（金） 14:00～16:30

②考古学講座

先史時代に関する考古学・環境などのテーマを設定し、専門家による講座を2回実施する（縄文の森広場との連携事業）。

・第1回講座「狩猟を探る（仮）」

日時：2月17日（土） 13:30～15:00

講師：佐藤宏之氏（東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター 特任研究員）

会場：研修室

・第2回講座「狩猟を探る（仮）」

日時：3月9日（土）または10日（日） 13:30～15:00

講師：山口未花子氏（北海道大学文学研究院 准教授）

会場：研修室

③富沢ゼミ

富沢遺跡や、その周辺地域の歴史・文化財を紹介する。また、令和4年度に引き続き、宮城県内の考古資料を取り扱うミュージアムのスタッフによる講座を開催する。

第1回「交通からみた長町の歴史」（オンライン配信あり）

講師：菅野正道氏（郷土史家／元仙台市史編さん室長）

日時：7月9日（日） 13:30～15:00

会場：研修室

第2回「みやぎの考古なミュージアム②石巻市博物館～毛利コレクションと石巻考古館～」(オンライン配信あり)

講師：泉田邦彦氏（石巻市博物館 学芸員）

日時：12月9日（土） 10:30～12:00

会場：研修室

④たのしい地底の森教室

館職員が、当館に関わる様々なテーマに関して行う体験型イベント。各種体験教室や野外展示を活用した観察会なども組み込み、子どもが楽しめる内容を中心に実施。

期日：土・日・祝を中心に月1回程度

13:30～14:30（内容により事前申込制）

⑤地底の森フェスタ2023

市民を対象として、館内及び野外の芝生広場を会場に「やり投げ」・「編布コーナー」・「石器コーナー」などの体験活動を行う。

日時：10月8日（日） 10:00～15:00

⑥体験コーナー「石器をつかってみよう」

館スタッフが製作した石器を使用して、型紙を切る体験を実施する。

日時：日曜日・祝日 13:30～15:00

（館事業により休止する場合もある）

⑦市民文化財研究員の育成

公募した市民（定員5人）が、1年間にわたり隔週1回水曜日に当館にて考古学や遺跡に関する学習活動を行う。館職員は、講義や遺跡見学会などの支援を行う。研究員は、それぞれのテーマに基づき自主学習を行い、その成果を活動報告にまとめる（10月・12月は自主活動期間）。

⑧ボランティア育成

市民文化財研究員を修了した希望者及び市民から募集し、展示解説や館行事の準備や補助などを行っていただくボランティアスタッフを養成する。また、登録している現ボランティアのスキルアップ研修も実施する（縄文の森広場との連携事業）。

i) 新規ボランティア養成講座

オリエンテーション：5月21日（日）

第1回：6月18日（日）

第2回：7月16日（日）

第3回：8月20日（日）

第4回：9月3日(日)

ii) ボランティア育成講座

第1回 講師：高嶋礼詩氏

(東北大学総合学術博物館 館長)

日時：9月23日(土・祝) 10:00～11:30

第2回 講師：未定

日時：未定

iii) ボランティア遺跡見学会(縄文の森広場との合同見学会)

日程：10月18日(水)、11月12日(日)

場所：大船渡市立博物館・陸前高田市立博物館

iv) ボランティア実技研修

講師：鈴木綾乃氏(埋もれ木細工 作家)

日時：9月23日(土・祝) 13:30～14:30

⑨富沢遺跡保存館研究会

埋没林と野外展示「氷河期の森」に関わる最新の研究成果やその価値などについて取り上げる。

日時：11月19日(日) 13:30～16:30

講師：山野井徹氏(山形大学 名誉教授)

鈴木三男氏(東北大学 名誉教授)

会場：研修室・野外展示

⑩地域や大学との連携

地域の行事には積極的に参加・協働し、周辺の学校や社会教育施設、並びに地域住民とともに地域文化の中核となる博物館をめざす。また市内大学と連携し、地底の森サポーターとの協働も進めていく。

i) 地域・近隣学校などとの運営懇談会開催

ii) 地域・近隣学校などへの出前対応

iii) 体験学習事業での学生ボランティアとの協働

⑪インターネットおよび SNS による情報発信

企画展の開催や体験活動などの情報を広く一般の方々に提供するため、ホームページを開設し、常時更新しながら情報発信を行う。また Facebook や YouTube での情報発信も行う。

⑫事業団の自主事業

i) 歴史的生活体験教室「親子でつくろう古代米」

体験教室で利用してきた水田への水供給がなくなったため、体験教室参加者は募集せず、館スタッフによる栽培実

験を行うこととした。天水を基本とした栽培と畑での栽培を行い、これまでの水田栽培との収量比較などを行う予定。

ii) 歴史・芸術融合事業「ミュージアム・シアター“狩人登場!!”」

市内を中心に演劇などの表現で活動している劇団「短距離男道ミサイル」の劇団員が旧石器時代の狩人に扮し、館内外にて狩人出現とパフォーマンスを行う(20回程度)。

開催期間：6月～12月

iii) 地域交流促進事業「2023森の響き」

地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすい形で野外展示「氷河期の森」の価値を高めることを目的として実施する。

たき火と星編 日時：11月23日(木・祝)

17:00～19:00

コンサート編 日時：1月27日(土) 17:30～18:30

iv) 映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」

令和5年度は、これまでの3年間で制作した動画や収集した写真の周知に努める。広報用印刷物の制作や、館内で360度・VR 動画の視聴体験イベントを行う。

・360度・VR 動画「地底の森ミュージアムに旧石器時代の狩人登場!!!」視聴体験

第1回 日時：8月26日(土) 13:00～15:30

第2回 日時未定

(3) 調査研究事業

①調査研究報告書の刊行

館職員・ボランティアスタッフなどによる考古学に関する調査研究活動及び研修活動の成果などを縄文の森広場と合同で「調査研究報告書」として刊行する。

②遺構の各種分析調査

地下の遺構面の維持・管理のため、専門家の指導・助言を頂きながら、適正な保存・管理を行うために遺跡保存処理検討会を2回実施する。

保存処理検討会 第1回：11月予定 第2回：2月予定

③野外展示「氷河期の森」植生検討会・植生景観調査

野外展示「氷河期の森」の植栽の維持管理のため、植生検討会と植生調査を実施し、氷河期の森の維持について専門家の指導を受け、補植などを実施する。また、植生検討会は縄文の森広場と連携して実施し、植物の構成樹種の相違を活かした2つの異なる森づくりとその利活用を行う。また、専門家や有識者を招いた研究会を行い、より良い野外展示の整備と活用のあり方を考え、常設展示リニューアルに向けた取り組みを進める。

第1回 植生検討会：7月14日(金)

第2回 植生検討会：未定

植生調査・景観調査・DNA分析 6月～3月

野外展示に関する研究会 11月19日(日)

④常設展示の見直しに関する調査研究

開館から25年を超え、常設展示の内容が最新の研究成果にそぐわない、反映していないところが増えてきた。来館者に正しい情報をより分かりやすく伝える展示内容や方法を検討する必要があるため、先進事例の調査や有識者を招き指導・助言をいただく場を設ける。

(4) 資料の収集・保管

①常設展示関係

仙台市教育委員会で所蔵する常設展示に関する資料を借用し保管する。

②保管資料

仙台市教育委員会が所蔵する旧石器時代・古墳時代に関する資料及び関係機関からの寄贈図書、購入図書、企画展実施のために製作した資料、寄贈資料などを収蔵する。

(5) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。あわせて「仙台市民文化事業団事業運営に関する基本方針」(令和4年3月改訂)に沿った業務を進める。

(6) 刊行物

①ミュージアム通信 年3回

②企画展刊行物(展示図録、ポスター、チラシ)

③年報(縄文の森広場と合本)

④調査研究報告書(縄文の森広場と合本)

⑤リーフレット、パンフレット

6. 利用案内

●所在地

〒982-0012 宮城県仙台市太白区長町南四丁目3-1

●電話およびFAX

TEL 022(246)9153 FAX 022(246)9158

●Eメール t-forest@coral.ocn.ne.jp

●ホームページ

<https://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~chiteinomori/>

●開館時間

午前9時～午後4時45分(入館は午後4時15分まで)

●入館料・共通券

区 分	個人	団体	共通入場券
一 般	460円	360円	490円
高校生	230円	180円	280円
小・中学生	110円	90円	150円

- ・団体は30人以上, 引率者は30人につき1人無料
- ・「地底の森ミュージアム」「仙台市縄文の森広場」共通入場券

●休館日

月曜日(休日は開館)

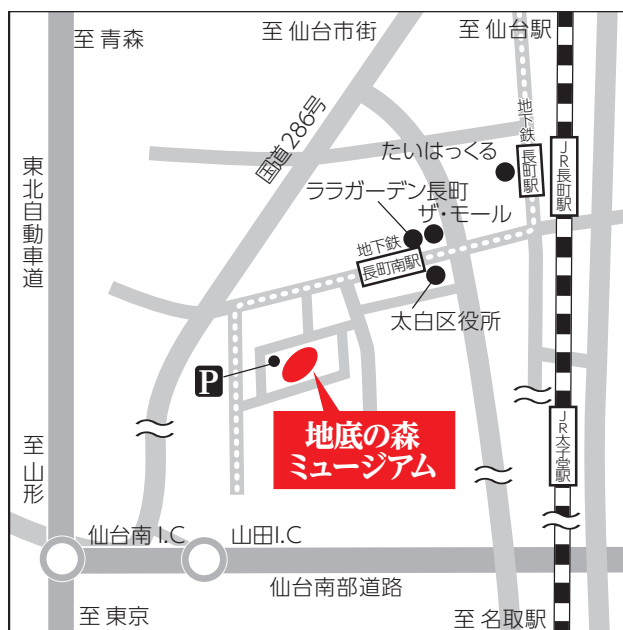
休日の翌日(休日, 土・日曜日にあたる日は開館)

1月～11月の第4木曜日(休日は開館)

くん蒸のため臨時休館(12月23日～12月27日)

●交通案内

- ・仙台市営地下鉄南北線長町南駅より西へ徒歩約5分
- ・JR 東北本線長町駅より西へ徒歩約20分・東北自動車道 仙台南インターより東へ約7km



[仙台市縄文の森広場]

1. 令和4年度事業報告

令和4(2022)年度も、新型コロナウイルス感染症の影響によって規模を縮小した事業もあったが、ポストコロナの社会状況を想定して適切な事業の見直しなどを行い、計画・実施した。

(1) 展示事業

①常設展示

○エントランスホール

当館の概要及び特長を紹介する映像が流れ、当館が完成するまでの軌跡を円形の壁面パネルにて展示している。壁面にある展示ケースでは、体験作品の見本やミニ企画展の拡張展示など、定期的に展示内容を変更している。卯年にちなんでウサギ形土製品をプレゼントする企画を行い、さらにその展示も行った。期間中、プレゼントを受け取られた来館者(「冬のじょうもんクイズラリー」に全問正解した方、卯年生まれの方)は合計222人であった。

当館ボランティア製作の複式炉模型の展示やオリジナルグッズの販売も行っている。

○ガイダンス展示室

<体験導入室1>「展示1 縄文ムラを発掘する」

山田上ノ台遺跡の発掘調査成果について、各種パネルや出土資料の展示などをおして紹介している。床面には竪穴住居の出土状況写真も展示している。また発掘の原理、調査の実際などを模型やVTRを使って紹介している。



縄文ムラを発掘する

<体験導入室2>「展示2 縄文ムラがよみがえる」

山田上ノ台の縄文ムラの情景を模型で再現している。新型コロナウイルス感染症対策として、ハンズオンや接触

の多い展示は一部撤去した。

・縄文学ラウンジ

縄文時代に関連した調べ学習ができるように、関連図書を整備している。くわえて縄文時代に食べられていたと考えられる木の実や雑穀などの実物も展示、紹介している。



縄文学ラウンジ

・縄文土器 年表&パズル

約12,000年間続いた縄文時代の、時期ごとの土器型式の違いを、仙台市内の遺跡とともに紹介するパネルを展示している。

・縄文時代の環境復元

縄文時代の植物環境についての説明パネルと、花粉が顕微鏡で実際どのように観察できるのか、モニター展示している。

・土器、石器がおしえてくれること

土器に残された痕跡から分かること、石器の用途などを紹介している。

<体験導入室2>「展示3 縄文ムラのくらしが見える」

・縄文人のすまいとくらし

竪穴住居の内部の様子を模型で紹介して、土器や石器などの出土品からわかった縄文人の生活を紹介している。



竪穴住居の模型

②企画展示

今年度は、東北の代表的な縄文遺跡について4回行った。

i) 春のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—3D でみる下ノ内浦遺跡の縄文土器—」

- ・会期：令和4年3月19日(土)～6月12日(日)
- ・入場者数：3,370人
- ・展示内容：仙台市に所在する縄文時代後期の下ノ内浦遺跡から発見された縄文土器を3D データとともに展示した。
- ・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネルなど。

ii) 夏のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—大野田遺跡の土偶たち—」

- ・会期：7月31日(日)～10月16日(日)
- ・入場者数：4,299人
- ・展示内容：仙台市に所在する縄文時代後期の大野田遺跡から発見されたハート形土偶・土器を、3D データとともに展示した。
- ・展示構成：遺跡地図及び遺跡・遺物紹介文字パネル・写真パネル・3D 動画など。



展示風景

iii) 冬のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—仙台市伊古田遺跡の土偶とその世界—」

- ・会期：12月1日(木)～令和5年2月12日(日)
- ・入場者数：1,617人
- ・展示内容：仙台市に所在する縄文時代後期の伊古田遺跡から発見された全長約40cm を誇る土偶や、土器の3D モデルを展示した。
- ・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネル・3D 動画など。

iv) 春のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—仙台の遺跡と米沢の遺跡—」

- ・会期：令和5年3月19日(日)～6月11日(日)
- ・入場者数：4,230人
- ・展示内容：仙台市に所在する縄文時代中期の高柳遺跡と、米沢市に所在する同じく中期の台ノ上遺跡の遺物を3D データとともに展示し、縄文時代の発達したネットワークの紹介を目的とした。
- ・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネル・3D 動画など。

③野外展示

i) 縄文ムラと広場

野外には、竪穴住居を復元し、その他の遺構を表示している縄文ムラゾーンと、植物栽培などを行う広場ゾーンがある。それらの周りにはクリやコナラなどの森を復元し、縄文時代の環境を含めて、集落を再現している。



縄文ムラの環境の復元

・縄文ムラ（野外展示の東半部）

発掘調査では38棟の竪穴住居跡をはじめ、貯蔵穴、落とし穴などが多数見つかり、各遺構は主に見晴らしの良い台地の縁辺に沿って造られている。野外の東側には同時期に建っていたことがわかった竪穴住居3棟を復元し、

また周囲には貯蔵穴や落とし穴、ゴミ捨て場などの遺構を表示し、縄文時代のムラの様子を再現している。

・復元住居について

3棟の竪穴住居の復元については、いずれもクリ材で骨組みを造り、土屋根タイプの構造を採用している。その中の14号住居はガイダンス展示室内にも一部を復元している。14号住居は地面を円形に掘り凹めて平らな床をつくり、8本の柱を立て、屋根は土で葺いた竪穴住居である。入口にあたる床の南側には、小石で囲まれた土器と大きな河原石の石組みなどからできた複式炉と呼ばれる大きな炉がある。



14号復元住居(左)と9号復元住居(右)

・広場(野外展示の西半部)

当時の広場と推定される場所を含めて西側一帯は、野外での縄文体験やイベント、縄文人が育てていた作物の栽培、体験活動を兼ねた発掘調査などを行う場として利用している。

ii) 植生

野外にはムラや広場とともに、縄文時代の森の様子を推定復元している。当時の植生についてはこれまでの研究で、縄文ムラの近くには現在の雑木林に近い落葉広葉樹林の豊かな森が広がっていたことがわかっている。これらを参考にして、高木はクリ、クルミ、トチ、コナラなど、低木はタラノキ、ガマズミ、ミズキ、ニワトコなど、草本ではササ、チガヤ、キキョウなどを植栽している。縄文の森広場植栽管理計画(2022～2026)をホームページで公開した。また、「植生検討会」での指導・助言を受けて、森の維持管理・充実を図っている。※令和4年度は検討会1回紙面開催1回実施。



植生の復元

iii) 縄文畑

野外広場の北西部には、縄文時代に栽培されていた可能性がある作物や有用植物の見本畑がある。現在はヒエ・アワ・キビの雑穀やエゴマ・ツルマメ・ヤブツルアズキの他に、アケビ、ヤマブドウ、カラムシなどを育てている。令和4年度は縄文の森広場植栽管理計画(2022-2026)をホームページで公開した。



つる性木本栽培棚

(2) 普及啓発事業

①夏休み子ども考古学教室

小学生と保護者がさまざまな体験活動を実施しながら縄文時代に関する理解を深め、生活の様子や知識を学ぶ機会とすることを目的に実施した。火おこし体験・ドングリクッキーづくりなど親子で楽しめるメニューの体験活動を行った。

・日時：7月30日(土) 10:00～12:00

8月20日(土) 10:00～12:00

・参加者数：33人



体験のようす

②長期休暇特別イベント

より多くの市民に当館に興味関心を持っていただくことを目的とし、市内小中学校の長期休暇期間にあわせて、普段とは異なる体験活動メニューを無料で実施した。



イベントのようす

○夏休み特別イベント

「つくって！縄文－縄文モチーフのうちわづくり－」

- ・日時：8月8日(月) 10:00～12:00, 13:00～15:00
- ・参加者数：69人

○秋休み特別イベント

「つくって！縄文－カラムシを使ったアクセサリーづくり－」

- ・日時：10月8日(土) 10:00～12:00, 13:00～15:00
- ・参加者数：24人

○冬休み特別イベント

「つくって！縄文－消しゴム石器づくり－」

- ・日時：12月24日(土) 10:00～12:00, 13:00～15:00
- ・参加者数：59人

○春休み特別イベント

「つくって！縄文－UVレジンでつくるオリジナルアクセサリー－」

- ・日時：3月25日(土) 10:00～12:00, 13:00～15:00
- ・参加者数：63人

③発掘資料整理体験教室

山田上ノ台遺跡の発掘調査で出土した土器や石器などの遺物に触れ、歴史を身近に感じてもらうねらいで実施した。実際の整理作業と同じような遺物実測や拓本取りの作業体験が主な内容であった。

- ・日時：10月12日(水) 10:00～14:00
10月16日(日) 10:00～14:00
- ・参加者数：のべ2組4人



教室のようす

④週末体験講座

さまざまな縄文体験を企画し、事前申込み制で実施した。参加者アンケートによる満足度はどの回も高く、縄文時代に興味・関心を持っている様子がうかがえた。

・「黒曜石で石器づくり」

4月17日(日) 10:00～12:00 参加者数：15人

・「縄文スプーンづくり」

5月29日(日) 10:00～12:00 参加者数：30人

・「ハート形土偶をつくろう」

9月11日(日) 10:00～14:00 参加者数：18人

・「千支の土製品づくり」

11月13日(日) 10:00～12:00 参加者数：11人

・「編布でランチマットづくり」

1月15日(日) 10:30～14:00 参加者数：7人

・「How to 火おこし」

3月5日(日) 10:00～12:00 参加者数：13人

⑤縄文の森講座

3回のうち2回は県外から講師を招いた。また会場・オンラインの併用で実施した。

○第1回「仙台発掘最前線!! 2022」

- ・日時：12月11日(日) 13:30～15:30
- ・参加者数：29人(会場18人 オンライン11人)
- ・講師：吉田大氏(仙台市教育局文化財課), 須貝慎吾氏(仙台市教育局文化財課)

○第2回「福島会津地域の縄文遺跡！藤権現遺跡の発掘成果!!」

- ・日時：1月22日(日) 13:30～15:30
- ・参加者数：47人(会場27人 オンライン20人)
- ・講師：植村泰徳氏(喜多方市教育委員会文化課)

○第3回「縄文人—その実像に迫る」

- ・日時：2月26日(日) 13:30～15:30
- ・参加者数：72人(会場30人 オンライン42人)
- ・講師：奈良貴史氏(新潟医療福祉大学教授)



講座のようす

⑥縄文まつり・縄文コンサート

春季・秋季のまつりのほか、地域の学校や活動団体によるコンサートを実施した。

○縄文春まつり

- ・日時：4月29日(金・祝) 10:00～15:00
- ・内容：ミニコンサート“ソニド・デル・ビエント”，七ヶ浜歴史資料館(縄文キーホルダーづくり), 土器の野焼き ほか
- ・参加者数：398人

○縄文秋まつり

- ・日時：10月22日(土) 10:00～15:00
- ・内容：クイズラリー, 工作体験, 弓矢体験, ミニコンサ

ト“和太鼓飛竜の会” ほか

- ・参加者数：652人

○縄文コンサート

- ・9月23日(金・祝) 11:00～12:00
高橋泉と縄文ジャズオーケストラ
- ・10月1日(土) 11:00～11:30
仙台市立人來田小学校ブラスバンド部
- ・10月8日(土) 13:30～14:30
オカリナ縄文会
- ・参加者数：189人

⑦学校・地域連携促進事業

事業団の自主事業。山田上ノ台遺跡や縄文文化とは何であるのかを地域の人々に知っていただく機会を設け、近隣の小中学校や地域の市民センター・児童館との結びつきを深めることで、縄文の森広場がより地域に根差した施設となることを目的とする事業である。今年度は近隣小学校を中心に土器片クッキー「ドッキー」づくりをおこなった。

- ・講師：おかしあそび考古学者 ヤミラ氏(下島綾美氏)
- ・日時：3月26日(日) 10:00～12:30
- ・参加者数：13人

⑧ 展示手法の開発と導入

事業団の自主事業。3次元データ計測とリビング・ヒストリーの2つを軸に今後の展示計画を検討した。令和4年度は、石器製作実験セミナー・3Dに関するシンポジウムを実施した。

i) 石器製作実験セミナー(尖頭器編)

- ・7月17日(日) 13:30～15:00
- ・講師：キム・オンジュン氏(東北大学大学院)
- ・参加者数：48人



石器製作実験セミナー

ii) 石器製作実験セミナー（韓国の細石刃編）

- ・ 10月23日(日) 13:00～15:00
- ・ 講師：チョ・ミングン氏（韓国 PAL 文化遺産センター）
- ・ 参加者数：19人

iii) 国際ミニシンポジウム「3D 技術と文化財・博物館」

- ・ 3月11日(土) 13:00～16:30
- ・ 講師：野口淳氏（金沢大学古代文明・文化資源学研究所）、
鹿野晴尚氏（東北大学総合学術博物館）、パク・ヨン
ジェ氏（韓国コサリ協同組合）、シン・ドンウク
氏（韓国漢陽大学文化財研究所）
- ・ 参加者数：49人



国際ミニシンポジウム

⑨野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける“じょうもん”」

縄文時代の植生を復元した野外展示を、地域住民や学校と共につくりあげることが目的とした事業で、毎年近隣の太白小学校1年生を対象として、太白山自然観察の森でクリやクヌギなどの種を採取し、植え付けを行った。

- ・ 10月27日(木) 9:30～11:40 種子採集
- ・ 3月2日(木) 10:15～12:00 植え付け
- ・ 参加者数：69人

⑩運営懇談会

当館の活動を紹介し、地域の町内会や小・中学校、市民センターなどの方々の意見をいただき、事業に反映させるために実施するものであるが、当年度は近隣小学校への聞き取りを行った。

(3) 体験活動事業

①各種体験活動

i) 随時体験

体験を希望する来館者に事前検温・手指消毒の協力をお願いして随時体験をおこなった。「火おこし」は当日受付で、「土器づくり」「勾玉・石のアクセサリーづくり」「石器づくり」「編布づくり」などは事前予約制で人数調整をおこないながら実施した。

- ・ 参加者数：3,824人

ii) 団体の見学・体験

令和4年度は51組の団体から見学・体験の申込みがあり、延べ人数は1,137人である。団体の内訳は市内の小・中学校を中心に、県内外の小・中学校、デイサービスセンターなどである。体験活動は勾玉づくりや石のアクセサリーづくり、土器づくりなど。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、見学のための利用も多い。新型コロナウイルス感染症の影響で、県外からの利用は少なかった。



団体見学のようす

iii) 出前講座

小学校・市民センターなどの依頼で、職員が希望の場所へ出向いて体験活動を行った。今年度は市内の小・中学校や市民センター、児童館、放課後等デイサービスなど13件に対応した。

- ・ 参加者数：653人

②学校教育との連携

i) 利用学習事業

学校の授業の一環として、地底の森ミュージアム及び当館が交通費（バス代）を負担し、体験活動と展示見学を組み合わせた学習活動を行う利用学習事業には、市内21の小・中学校1,459人の参加があった。新型コロナウイルス感染症の警戒レベルが下がった影響で、参加校は増加している。

また、令和2年度から新学習指導要領が改訂され、歴史学習の開始時期が変更になったこともあり、6～7月の利用が中心となっている。本事業の詳細は当館ホームページ上に公開している「利用学習実践報告」を参照されたい。

ii) 博物館実務実習

大学で行われている博物館学の講義の一環として、学芸員資格取得のための実習を行った。館運営に関する講座のほか、縄文秋まつりの準備、発掘体験教室の準備と実施、体験活動の指導法などの実習を行った。

- ・10月7日(金)～11日(火)
- ・参加者数：2校2人

iii) 教職員機関研修

学校教育との連携をはかる事業の一環として、市内小中学校教職員を対象に参加者を募集し、教職員利用研修会及び機関研修を行い、当館の概要説明や体験活動の周知を図る。

- ・日時：8月5日(金) 9:30～11:30
- ・参加者なし

iv) 職場体験活動

5～11月に市内中学校6校から職場体験の申し込みがあり、対応した。当館の勤務内容を体験するとともに、事業内容などについても説明を行った。これまで来館者の立場で当館を利用した生徒もあり、職員にとっても来館者の生の声を聴くことのできる貴重な機会となった。

- ・受入：6校29人

v) インターンシップ

大学生を対象とした職業訓練を受け入れた。

- ・日時 2月14日(火)～2月19日(日)
- ・参加者数 1校1人

(4) ボランティア活動事業

① ボランティア育成講座

ボランティア新規応募者3人および活動を継続しているボランティアを対象に計6回の講座を開催した。内容はボランティア活動の概要、体験活動の技術研修などである。

- 第1回 4月10日(日) 10:00～12:00
オリエンテーション・施設見学
参加者数：3人
- 第2回 4月24日(日) 10:00～12:00
勾玉・石のアクセサリーづくり

参加者数：2人

第3回 5月8日(日) 10:00～12:30 土器づくり

参加者数：7人

第4回 5月22日(日) 10:00～12:00 土製品づくり

参加者数：3人

第5回 6月5日(日) 10:00～12:00

編布コースターづくり

参加者数：1人

第6回 6月26日(日) 13:30～15:00 火おこし

参加者数：4人



ボランティア育成講座

県内外の施設でおこなう視察研修は中止としたが、地底の森ミュージアムと合同で仙台市内の富沢遺跡と蒲生御蔵跡の発掘見学を実施した。



ボランティア研修(富沢遺跡の発掘見学)

② ボランティア会との連携

仙台市縄文の森広場ボランティア会は、当館の運営をあらゆる面で支えるボランティアスタッフが運営する組織である。平成18年5月28日に設立され、令和4年度は52人が会員となった。館と会との連絡・調整は、毎月第4日曜日の定例会を中心に行っている。ここでは、館から翌月の事業に対する協力要請を説明したり協議したりしながら、

サポート体制の構築をはかっている。活動内容としては来館者と接触しない活動に限定した（体験活動の準備など）。また、記念品・ミュージアムグッズの製作も行っている。ボランティアによる手作りの「勾玉」・「編布」・「土製品」はいずれも好評を得ており、修学旅行の子どもたちや家族づれに特に人気が高い。

以上のような、多岐にわたるボランティア会のさまざまな活動は、当館をより魅力的なものとするうえで非常に重要な役割を担っている。館とボランティア会との連携を、今後より多方面に展開し、強化していきたい。

○令和4年度のボランティア登録者数

・52人（前年度から継続51人＋新規1人）

○令和4年度のボランティアの活動実績

・のべ人数：238人

・のべ時間：1,231時間

(5) 調査研究事業

①体験プログラムの開発

体験施設である当館にとって、新規体験プログラムの開発は来館者に飽きを感じさせないための重要な要件である。既存体験メニューの見直し、体験内容と縄文文化をより分かりやすく紹介する方法、および新規プログラムの開発に取り組んだ。週末体験講座ではコーナー展示とあわせた「ハート形土偶をつくろう」体験や、新型コロナウイルス感染拡大以降中止していた食体験の実施方法を見直し、再開した。

②復元住居の維持管理

当館の野外広場にて復元・公開している土屋根式竪穴住居を、より良好な状態で維持管理する方法について検討を行った。

③ボランティアスタッフとの共同調査

縄文時代および当館の管理運営に関わる様々な内容について、ボランティアスタッフと共同で調査活動を行った。

④調査研究報告書

仙台市富沢遺跡保存館と合本で、『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2022』を発刊した。当館職員の調査研究活動として、2本の報告をまとめた。

・佐藤祐輔「岩偶・土偶の変形行為を客観的に可視化するための試論」

・堀江夏歩「大野田遺跡出土土偶からみるハート形土偶の製作技法」

2. 利用状況

令和4年度の開館日数は293日で、その間の全利用者数16,618人であった。前年度の12,852人に比較すると、4,036人増となっている。

体験活動者数は6,487人(団体の複数体験者も含む)で、全利用者数の約30%となり、前年より多い。新型コロナ

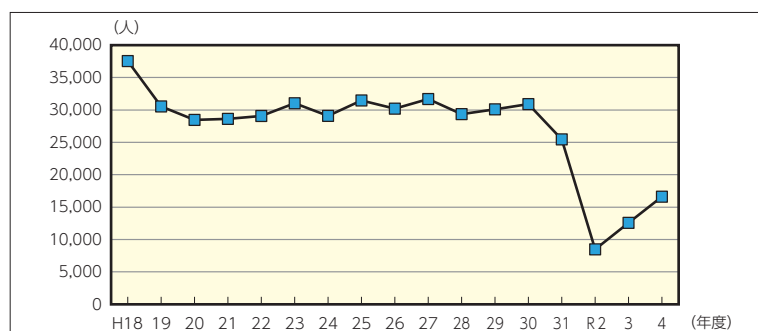
ウィルス感染症拡大防止のため、体験内容・回数・人数などを制限して随時体験を行った。体験活動内容では石のアクセサリーづくりが全体の34.6%を占めて最も多く、続いてミニ土製品づくり18.1%と続く。

なお、平成18年7月15日の開館から令和4年3月31日までの入館者の累計は461,276人である。

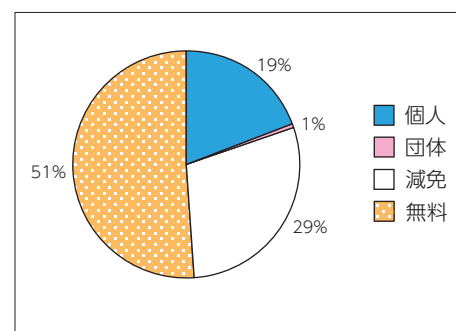
入館状況 (令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

月	有 料							無 料					体験活動者		合計
	個 人			団 体			計	減免			無料入館	計	内、団体体験重複者(-)		
	一般	高校生	小・中学	一般	高校生	小・中学		一般	高校生	小・中学					
4	195	5	11	1	0	0	212	91	0	89	669	849	274	10	1,325
5	253	7	13	5	0	0	278	68	0	101	451	620	516	21	1,393
6	113	0	58	4	0	0	175	149	0	733	397	1,279	1,199	840	1,813
7	329	2	10	0	0	0	341	115	0	615	271	1,001	1,316	574	2,084
8	361	4	48	0	0	0	413	88	0	255	403	746	690	36	1,813
9	175	1	4	31	0	29	240	42	0	187	493	722	612	244	1,330
10	202	3	8	0	0	0	213	80	0	268	1,348	1,696	497	218	2,188
11	124	1	4	0	0	0	129	151	0	141	675	967	459	68	1,487
12	79	1	3	0	0	0	83	36	0	109	412	557	190	94	736
1	101	0	7	0	0	0	108	37	0	33	270	340	228	16	660
2	101	2	2	0	0	0	105	41	0	50	323	414	179	25	673
3	131	4	14	0	0	0	149	54	0	66	539	659	327	19	1,116
計	2,164	30	182	41	0	29	2,446	952	0	2,647	6,251	9,850	6,487	2,165	16,618

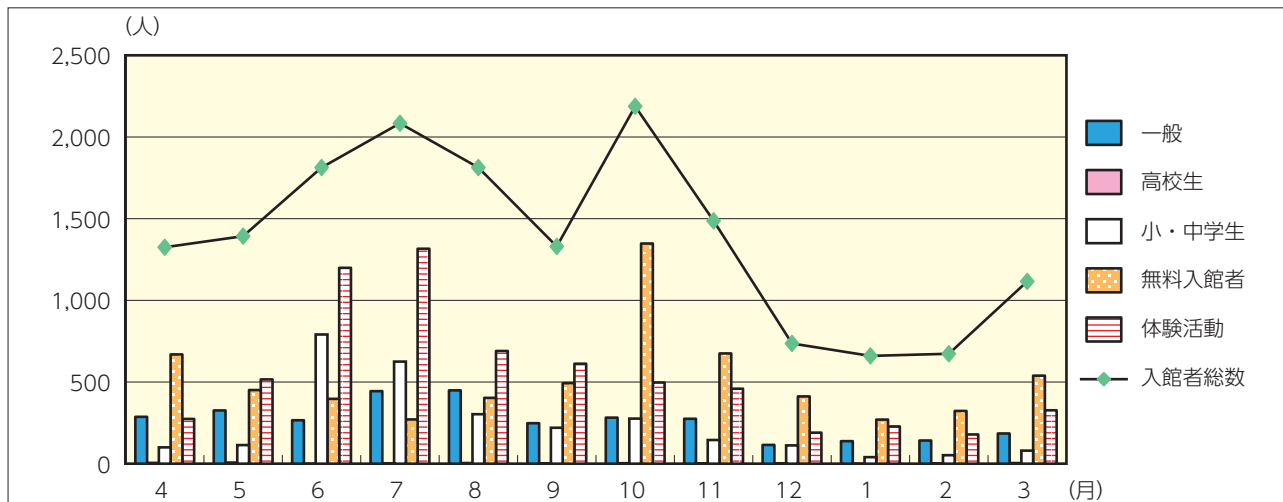
開館年度からの入場者推移



入館者内訳



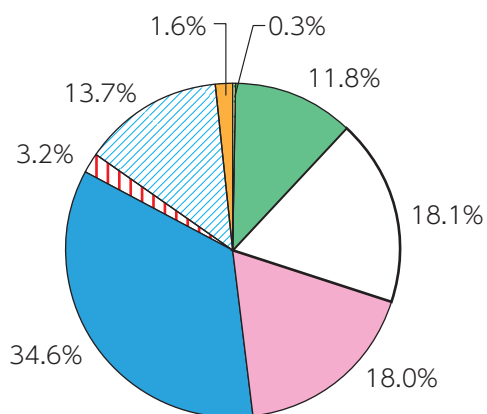
月別入館者数



体験活動数

(団体の複数体験も含む)

月	体験メニュー											合計
	縄文土器 (大) づくり	縄文土器 (小) づくり	ミニ土製品づくり	石器づくり	勾玉づくり	石のアクセサリーづくり	サメの歯アクセサリーづくり	シカの角アクセサリーづくり	編布づくり (コースター)	火おこし	体験講座	
4	0	33	59	0	46	33	0	9	0	25	8	213
5	0	149	46	0	85	57	0	13	0	42	27	419
6	0	109	290	0	167	611	0	8	0	35	0	1,220
7	0	107	166	0	107	472	0	8	0	165	8	1,033
8	0	77	90	0	128	102	0	26	0	74	4	501
9	18	20	75	0	130	153	0	5	0	68	9	478
10	0	41	29	0	70	209	0	7	0	54	0	410
11	0	23	106	0	90	37	0	5	0	63	9	333
12	0	0	6	0	25	104	0	4	0	21	0	160
1	0	12	43	0	49	10	0	5	0	44	5	168
2	0	34	12	0	20	13	0	6	0	36	0	121
3	0	18	34	0	35	29	0	5	0	95	13	229
計	18	623	956	0	952	1,830	0	101	0	722	83	5,285



3. 入館者アンケート

令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

4. 令和5年度事業計画

(1) 基本方針

仙台市先史遺跡保存活用施設条例及び指定管理事業計画(別紙)に基づき、「人間と環境を考えるランドマーク」として地底の森ミュージアムと相互補完し合いながら、山田上ノ台遺跡の保存と公開及び縄文時代の資料の保存・調査・活用を行う。また様々な展示・体験・講座等を通して「歴史」に学ぶ活動を展開する。併せて当館の特色として調査・研究活動の成果を基にした「自然と共生した縄文人の知恵」を体験活動などに展開し、芸術分野や他分野との積極的な交流を推し進めながら、各年代層に応じた豊かな「学び」の機会を提供する施設を目指す。

(2) 展示事業

①コーナー展示

「縄文の遺跡」をテーマにコーナー展示を実施する。

- ・3月19日(日)～6月11日(日)
- ・8月1日(火)～10月15日(日)
- ・12月1日(金)～2月12日(月)
- ・3月19日(火)～6月4日(火)

②野外展示「縄文の森広場」植生検討会

※地底の森ミュージアムと共同で実施

第1回：7月上旬予定

第2回：11月上旬予定

(3) 普及啓発事業

①ボランティア育成講座

新規のボランティア10名を募集し、来館者や参加者により分かりやすい説明や体験活動の補助を行うための研修事業。現ボランティアのスキルアップ研修も兼ねる。

第1回オリエンテーションを4月9日(日)に実施し、その後、月1回程度実施。

②縄文講座

考古学に関する講演会を実施し、最新の研究状況を取り

上げる。オンラインでの配信も行う。

- ・12月10日(日)
- ・1月21日(日)
- ・2月25日(日) 各回とも13:30～15:30

③縄文まつり(コンサート含む)

季節ごとに開催する。春・秋には体験や縄文に関連したゲームなど実施し、夏・冬には体験や縄文に関連したゲームやコンサートなどを実施する。また週末を中心にコンサートも実施する。

- ・4月29日(土・祝) 10:00～15:00
- ・10月14日(土) 10:00～15:00

④夏休み子ども考古学教室

火おこし、縄文食づくりなどの様々な体験を行う。

- ・7月29日(土) 10:00～14:00
- ・8月19日(土) 10:00～14:00

⑤特別イベント

縄文時代や歴史に関わる、普段とは異なる体験メニューを行うイベントを行う。

- ・8月11日(金・祝)
- ・10月7日(土)
- ・12月23日(土)
- ・3月23日(土)

⑥週末体験講座

様々な作品づくりや生活体験などを実施し、縄文人の技と心を学ぶ。

- ・4月16日(日)
- ・5月21日(日)
- ・9月10日(日)
- ・11月12日(日)
- ・1月14日(日)
- ・3月3日(日)

⑦発掘体験教室

敷地内で行われる発掘調査に参加する体験、出土遺物の実測・拓本などの整理作業に参加する体験を行う。

- ・整理体験 11月19日(日) 10:00～14:00

⑧利用学習事業【地底の森ミュージアムと合同して実施】

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主たる対象とし、地底の森ミュージアムと当館の見学と各種の縄文体験による体験学習を行う。

日程：学校側の希望による（通年）

⑨施設利用予約

利用学習事業参加校以外の学校、子ども会、町内会等の各種団体を対象として展示解説や縄文体験を行う。

⑩随時体験

来館者に様々な縄文体験メニューを提供する。参加者の利便性を高め、より多くの市民が気軽に当館を訪れ体験活動に参加できるよう火おこし体験は予約なしで随時受け入れることとする。

⑪教員機関研修【地底の森ミュージアムと合同実施】

学校教育との連携事業を推進するために、仙台市内の教職員を対象（定員20人）として当館の概要及び体験活動事業を周知する機会とする。

・日時：8月4日（金）

⑫野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける『じょうもん』」

野外展示「縄文の森」の利活用の幅を広げるために、地域の団体や小学校などと連携した事業で専門家の指導を受けて太白山自然観察の森で生育するクリなどを採取し育てる事業を行う。

太白小1年生を対象として10月と3月頃に実施予定。

⑬博物館実務実習

学芸員資格取得をめざす大学生を数名受け入れ、実習を行う。

日時：10月中旬（計5日間） 9:30～16:00

⑭職場体験・インターンシップ

近隣中学校の要請により、中学2年生を対象とした職場体験の受入れなどを行う。

日時：5月～12月頃（学校の希望による）

⑮情報発信

- ・ホームページの更新
- ・Facebook, YouTube の更新
- ・館内の情報提供（掲示物：発掘調査情報、他施設イベント情報）

⑯ボランティア会との連携

- ・定例会開催と館運営の協力依頼
- ・自主的な会活動に対する支援

・ミュージアムグッズの共同開発と制作販売の支援

⑰地域と連携

町内会などの地域住民の行事に対しては、共催や後援等の形で活動の場を提供しながら支援を行う。

⑱運営懇談会

10月頃に実施

⑲専門研修

2月24日（土）

⑳文化事業団の自主財源事業

i) 学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」

縄文時代の遺物などを資源とした、他分野との協働作業開発・実施を行う。

ii) 縄文の森オリジナルグッズ制作販売

iii) 展示手法の開発・導入

- ・縄文土器の3次元データ計測・作成
- ・リビング・ヒストリー手法の調査

(4) 調査研究事業

- ①縄文時代に関する調査研究
- ②体験活動メニュー、プログラムに関する調査研究
- ③復元住居の経年変化等観察記録・分析にもとづく維持管理に関する調査研究
- ④西側広場一帯の整備に向けた調査研究
- ⑤ボランティアスタッフとの共同調査研究の実施
- ⑥上記の研究成果をまとめた調査報告書を地底の森ミュージアムと合本で刊行
- ⑦2023年度コーナー展示の資料調査

(5) 資料の収集・保管

- ①仙台市から借用保管している山田上ノ台遺跡等の縄文時代を中心とした資料を適切に管理し、各種事業活動に活かす。
- ②事業活動の充実を図るため、縄文時代を中心とした資料、及び縄文時代に関する文献の収集を行う。

(6) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。今年度から施行の「仙台市市民文化事業団事業運営に関する基本指針」に沿った業務を進める。

(7) 刊行物

- ①ミュージアム通信 年3回
- ②イベント紹介チラシ 年2回
- ③年報 10月刊行(地底の森ミュージアムと合本で)
- ④調査研究報告書 年度末刊行(地底の森ミュージアムと合本で)
- ⑤リーフレット、パンフレット、封筒

5. 利用案内

●所在地

〒982-0815 宮城県仙台市太白区山田上ノ台町10-1

●電話およびFAX

TEL 022(307)5665 FAX 022(743)6771

●Eメール j-hiroba@cap.ocn.ne.jp

●ホームページ

<https://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~jyoumon/>

●開館時間

午前9時～午後4時45分(入館は午後4時15分まで)

●入館料・共通券

区 分	個人	団体	共通入場券
一般	200円	160円	490円
高校生	150円	120円	280円
小・中学生	100円	80円	150円

- ・団体は30人以上、引率者は30人につき1人無料
- ・「地底の森ミュージアム」「仙台市縄文の森広場」共通入場券

●休館日

月曜日(休日は開館)

休日の翌日(休日、土・日曜日にあたる日は開館)

1月～11月の第4木曜日(休日は開館)

年末年始(12月28日～1月4日)

●交通案内

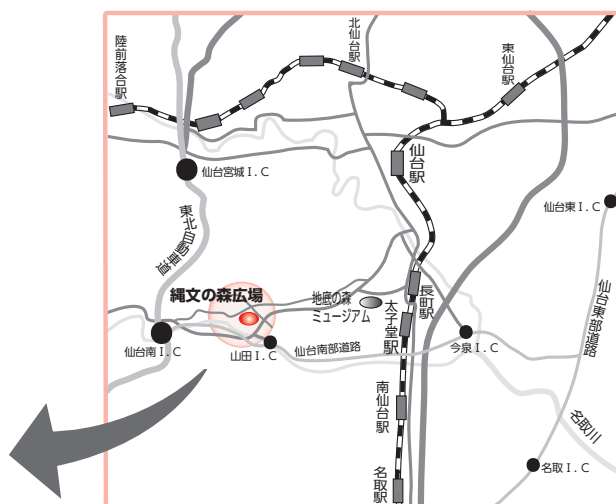
【バス】

県庁市役所～仙台駅～長町駅より宮城交通バス「秋保」「日本平」「茂庭台」「南ニュータウン」行きにて
「山田・太白消防署前」停留所下車徒歩5分

【車】

東北自動車道：仙台南インターから約4km

仙台南有料道路：山田インターから約1km



地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報 2023

発 行 日 令和5(2023)年10月13日

編集・発行 (公財) 仙台市市民文化事業団 仙台市富沢遺跡保存館
〒982-0012 仙台市太白区長町南4-3-1 T E L (022) 246-9153

印 刷 今野印刷株式会社
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-10 T E L (022) 288-6123



この印刷物は、環境にやさしい
「水なしLED-UV印刷」で印刷しています。